

## 第9節 絵図

- ※ 今回報告書を作成するにあたって調査した絵図について掲載した。掲載絵図は「修補絵図および関連資料」と「その他」に大別した。
- ※ 所蔵先の表記について、一部次のとおり略記した
  - ・松平文庫 : 肥前島原松平文庫 (島原市教育委員会)
  - ・本光寺 : 本光寺常盤歴史資料館 (島原市)
  - ・臼杵市教委 : 臼杵市教育委員会
  - ・九大文化史 : 九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門

### 修補絵図および関連資料

- ※ 「修補絵図」は、石垣や城郭建造物などの修補を幕府に届け出る際に提出されるが、現在遺されており、今回掲載したものの多くはその控図である。中には享保四 (1719) 年作成の『肥前国嶋原城絵図』(本光寺29、絵図番号10-1)のように、提出しながらも差し戻された絵図も含まれる。
- ※ 「修補絵図および関連資料」には修補の許可を達した老中奉書やその他の覚書等、絵図の作成に関連する文献資料も掲載した。また、修補に関する文献資料でありながら絵図が伝わっていないものや、当初より単体の文献資料についても「補遺」の項を設けて掲載した。なお、今回本報告書には掲載していないが、『島原市文化財調査報告書 第15集 森岳城跡IV-島原拘置支所宿舍建設に伴う発掘調査報告-』に翻刻文を掲載した、肥前島原松平文庫蔵『石垣御修復控』も、島原城の石垣の修補に関する文献資料である事を付記しておく。
- ※ 島原城の修補許可については、白峰旬「肥前国島原城修補許可の老中奉書について-島原市本光寺所蔵史料の史料調査より-」(『別府大学大学院紀要 7』2005)を参照した。

### その他

- ※ 「その他」には、まず冒頭に『隣国様子聞合帳』(神戸大学文学部 日本史研究室蔵『中川家文書』(1987臨川書店)所収187号文書(参考))と『幕府隠密復命書(筑前筑後肥前肥後探索書)』(長崎歴史文化博物館13-296 絵図番号1)との2資料を部分収録した。前者は挿図を含むものの、いずれも絵図資料とは異なるが、築城して間もない寛永期頃の島原城の様子が記載されており、絵図資料にも匹敵する情報を有している。
- ※ 次いで、『三ノ丸絵図』(松平文庫72-89、絵図番号2)や『興慶園御住居替新建御家差図』(本光寺1885、絵図番号3-1)といった、城内の建築物単体を主題とした絵図から、城内(郭内)→島原城下全体→島原半島と、番号が降るにつれて描写領域が広い絵図を原則として配した。
- ※ 上記の原則とは異なる絵図もある。

特に臼杵市教育委員会所蔵の絵図は、臼杵藩主・稲葉家に伝わったものであるが、高力高長が島原藩主を改易され、その後に松平忠房が入部するまでの間のうち、寛文八(1668)年5月から同年12月まで、臼杵藩が島原城の在番を担当した経緯から、いずれも作成年代が寛文八年前後に限定されるものと推測する。島原に関する現存の絵図としては比較的早く、しかも修補絵図以外で作成年代が限定的である事も稀である事から、『嶋原合戦絵図』(資料番号②-303、絵図番号24)のような、今回掲載した絵図の主題とは趣を異にするものも含め、調査した絵図13点を全て掲載した。
- ※ 今回は島原城に主眼を置いた調査であったため、とくに島原半島を描いた絵図については未調査のものが多く、今後の課題としたい。





一先掛門虎口取直シ繪圖之通石垣高老丈三尺長サ  
折廻シ五拾八間新規ニ仕度奉存候事  
一田町口門南之脇石垣崩候所并はらミ申候所如元築直シ  
申度奉存候事  
一本丸石垣はらミ候所四ヶ所取崩如元築直シ申度奉存候事  
一冠木門式ヶ所新規ニ建申度奉存候事  
一三ノ廊之内田ニ而有之候所繪圖之通堀をほり其土  
ニテ地形仕屋敷ニ仕度奉存候事  
右之通以連々普請仕候様ニ奉願候以上  
寛文十二壬子年六月三日 松平主殿頭

(文面)  
一先掛門虎口取直シ繪圖之通石垣高老丈三尺長サ  
折廻シ五拾八間新規ニ仕度奉存候事  
一田町口門南之脇石垣崩候所并はらミ申候所如元築直シ  
申度奉存候事  
一本丸石垣はらミ候所四ヶ所取崩如元築直シ申度奉存候事  
一冠木門式ヶ所新規ニ建申度奉存候事  
一三ノ廊之内田ニ而有之候所繪圖之通堀をほり其土  
ニテ地形仕屋敷ニ仕度奉存候事  
右之通以連々普請仕候様ニ奉願候以上  
寛文十二壬子年六月三日 松平主殿頭

1-2 [幕府老中連署奉書] 本光寺 175

鳴原城先懸門虎口  
取直シ新規石垣築之事  
田町口門南之脇石垣崩候所  
并孕候所如元築直之事  
本丸石垣孕候四ヶ所取崩之  
如元築直之事冠木門  
式箇所新規建之事  
三丸之田掘堀以其土  
地形築立之事得其  
意候繪圖之通及  
上聞候処連々普請可  
申付之旨被 仰出候  
可被存其趣候恐々  
謹言  
寛文十二子  
六月六日  
久世大和守  
板倉内膳正  
土屋但馬守  
稻葉美濃守  
松平主殿頭

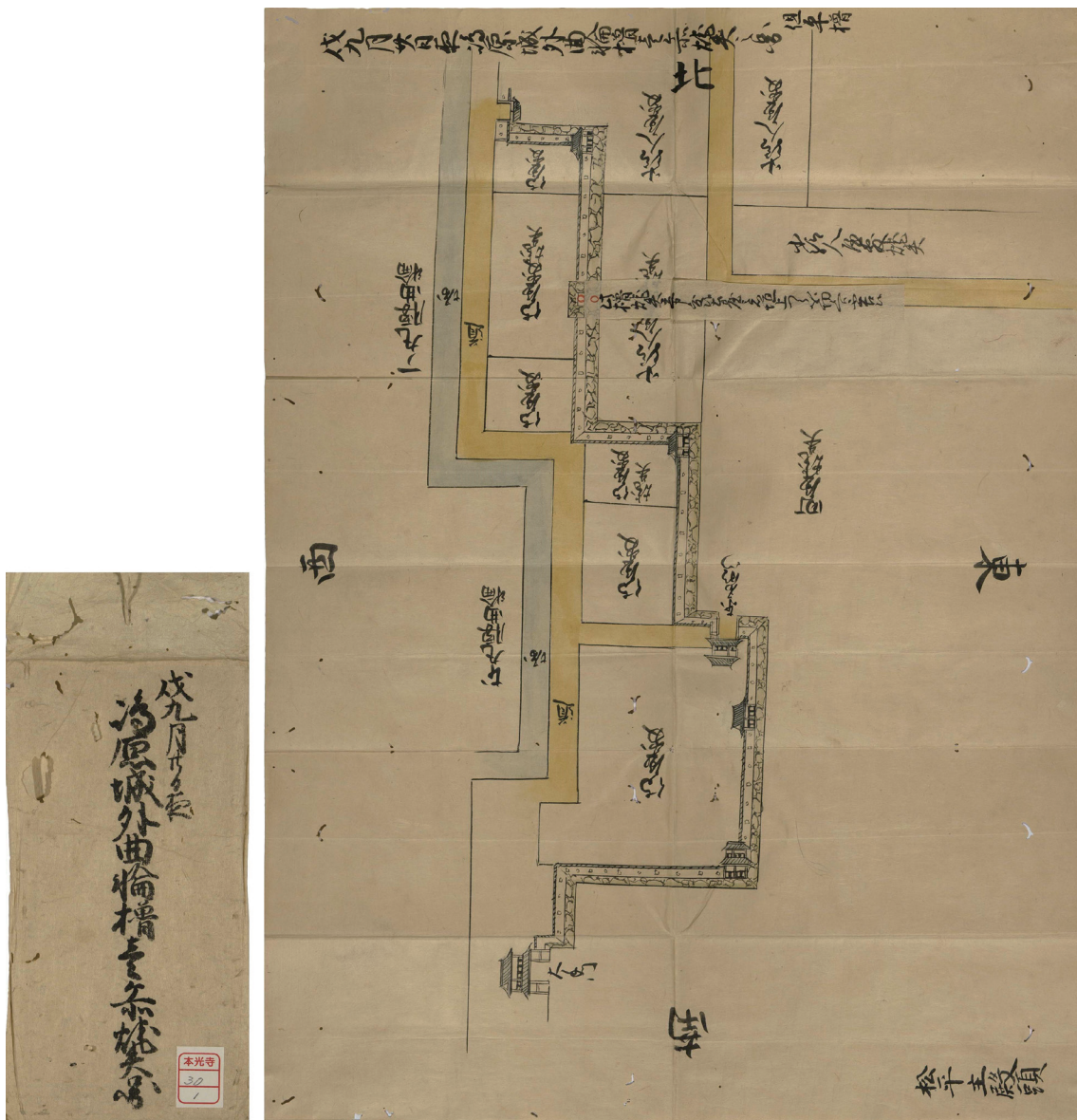
(本文)  
以上  
鳴原城先懸門虎口  
取直之新規石垣築之事  
田町口門南之脇石垣崩候所  
并孕候所如元築直之事  
本丸石垣孕候四ヶ所取崩之  
如元築直之事冠木門  
式箇所新規建之事  
三丸之田掘堀以其土  
地形築立之事得其  
意候繪圖之通及  
上聞候処連々普請可  
申付之旨被 仰出候  
可被存其趣候恐々  
謹言  
寛文十二子  
六月六日  
久世大和守 廣之(花押)  
板倉内膳正 重矩(花押)  
土屋但馬守 数直(花押)  
稻葉美濃守 正則(花押)  
松平主殿頭







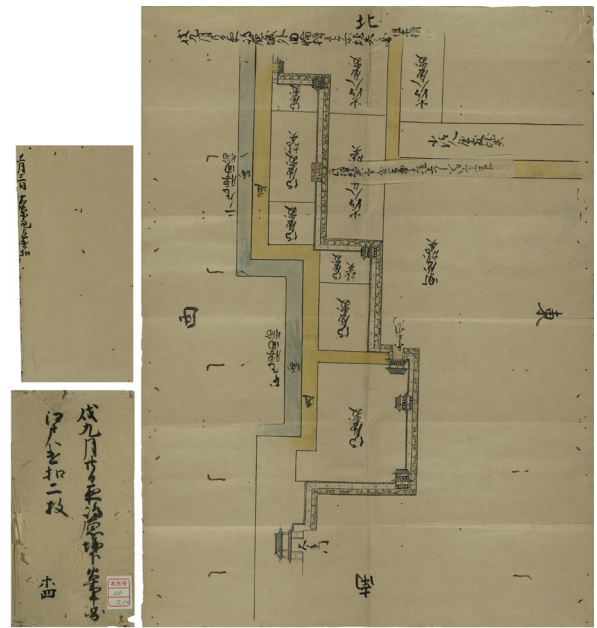
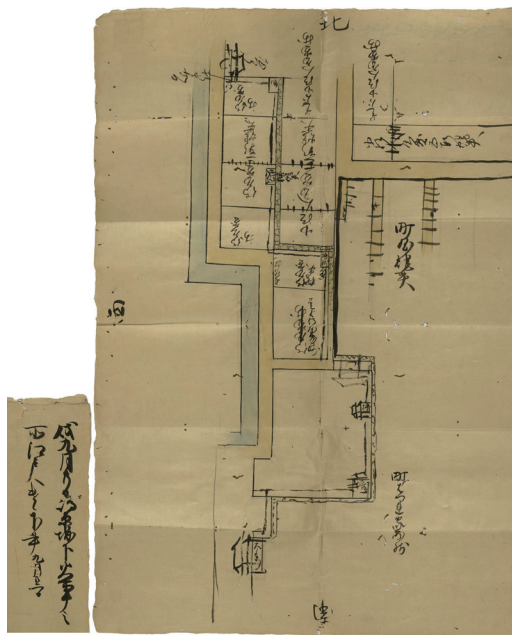
2-1 戊九月廿日夜嶋原城外曲輪櫓臺ヶ所焼失之図（戊〔1682・天和2〕）本光寺 30-1



(封筒上書)  
戊九月廿日夜  
嶋原城外曲輪櫓臺ヶ所焼失図

2-2 (右) 戊九月廿日夜嶋原城外曲輪櫓臺ヶ所焼失之図 (戊〔1682・天和2〕) 本光寺 30-2-1

2-3 (左) 戊九月廿日夜嶋原城下火事之所江戸へ遣候下書 (戊〔1682・天和2〕) 本光寺 30-2-2



(裏書)  
 戊九月廿日夜嶋原城下火事之  
 所江戸へ遣候下書 九月廿二日

(封筒上書)  
 戊九月廿日夜嶋原城下火事図  
 江戸へ遣扣二枚 亦四  
 (裏書)  
 十一月三日 右京亮迄遣扣

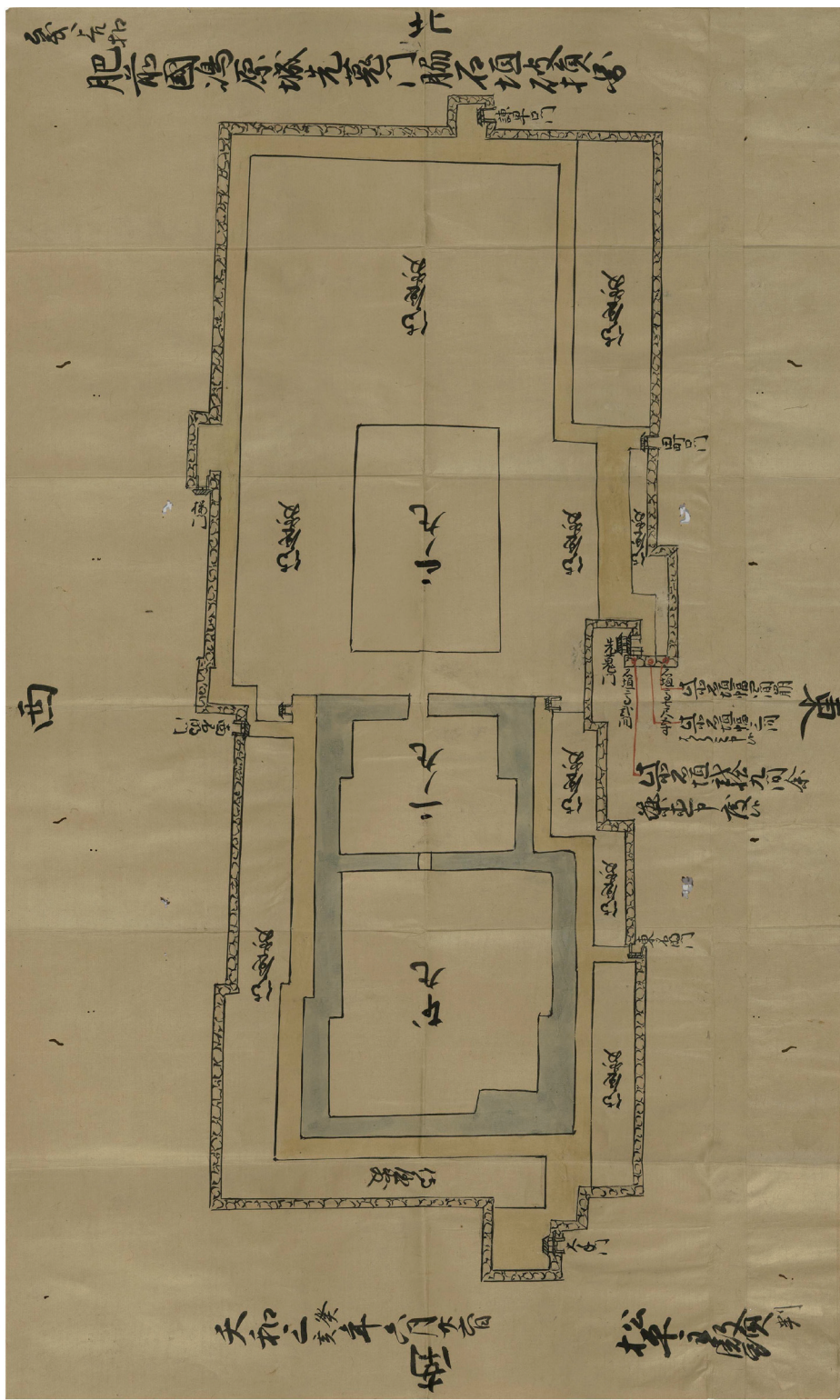
(参) 『万日記 (島原藩日記) 天和二年九月』  
 [天和二年九月廿日]  
 一今西之半刻土橋麻右衛門朝留守家より火事出来、  
 今西祐珀朝留守家焼失、夫より服部半兵衛家へ  
 移、夫より山崎作太夫・靄田茂七・宇野善次郎・  
 中村丈右衛門家焼失、三会町別当伊兵衛家迄焼  
 失、中町・下町・宮町六七軒残、亥之刻火鎮候事



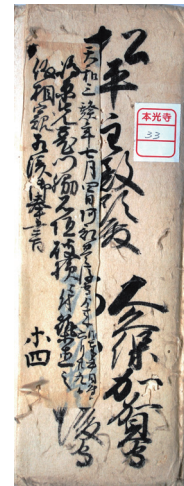
3-1 肥前国嶋原城先菟門脇石垣破損図 (1683・天和3) 本光寺 23

(封筒上書)  
 公義へ上ル扣  
 肥前国 小四  
 嶋原城石垣破損所図  
 天和三癸亥年  
 六月廿六日  
 松平主殿頭

肥前国 公義へ上ル扣  
 嶋原城石垣破損所図  
 天和三癸亥年  
 六月廿六日  
 松平主殿頭  
 本光寺 23



3-2 [幕府老中連署奉書] 本光寺 33



(包紙付箋)

天和三癸亥年七月四日阿部豊後守より来 同奉書日付ハ

六月廿九日

鳴原先蒐門脇石垣破損ニ付築直之

儀相窺相濟御奉書

小四

(同上書)

大久保加賀守

松平主殿頭殿

阿部豊後守

(本文)

以上

肥前国鳴原城石垣

東方先蒐門之脇

壺ヶ所崩壺ヶ所孕

壺ヶ所は築直之事

絵図之通得其意候

如元可有普請候

恐々謹言

天和三亥

六月廿九日

阿部豊後守

大久保加賀守

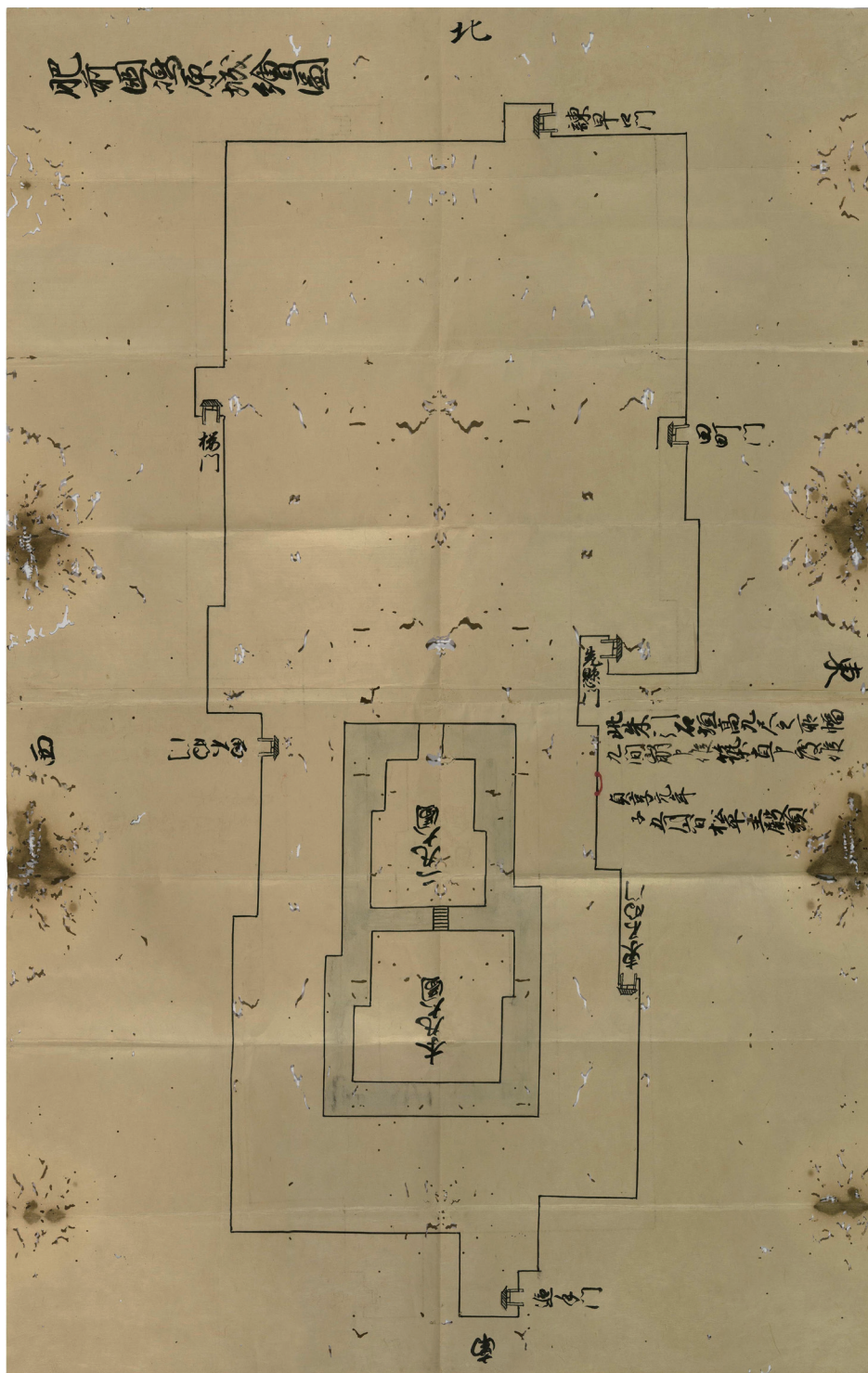
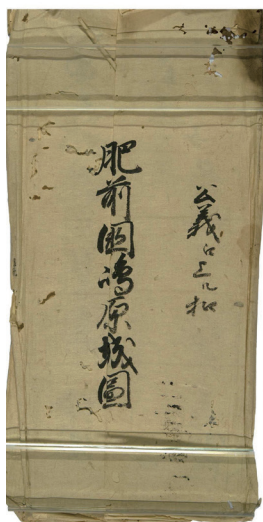
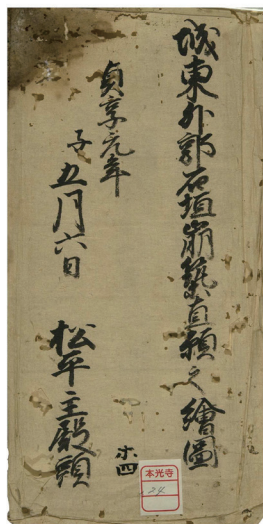
松平主殿頭殿

正武 (花押)

忠朝 (花押)



4-1 肥前国嶋原城絵図（1684・貞享元）本光寺 24

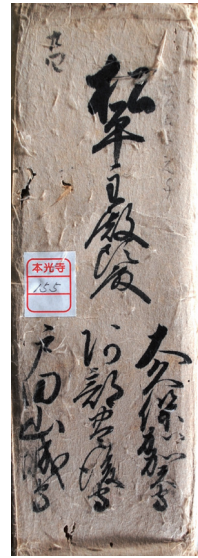


(封筒上書表)  
 城東外郭石垣崩築直願之絵図  
 貞享元年 本四  
 子五月六日 松平主殿頭

(同裏)  
 公義之上ル扣  
 肥前国嶋原城図

(文面)  
 此朱引石垣高九尺之所幅  
 九間崩申候築直申度候  
 貞享元年  
 子五月六日 松平主殿頭

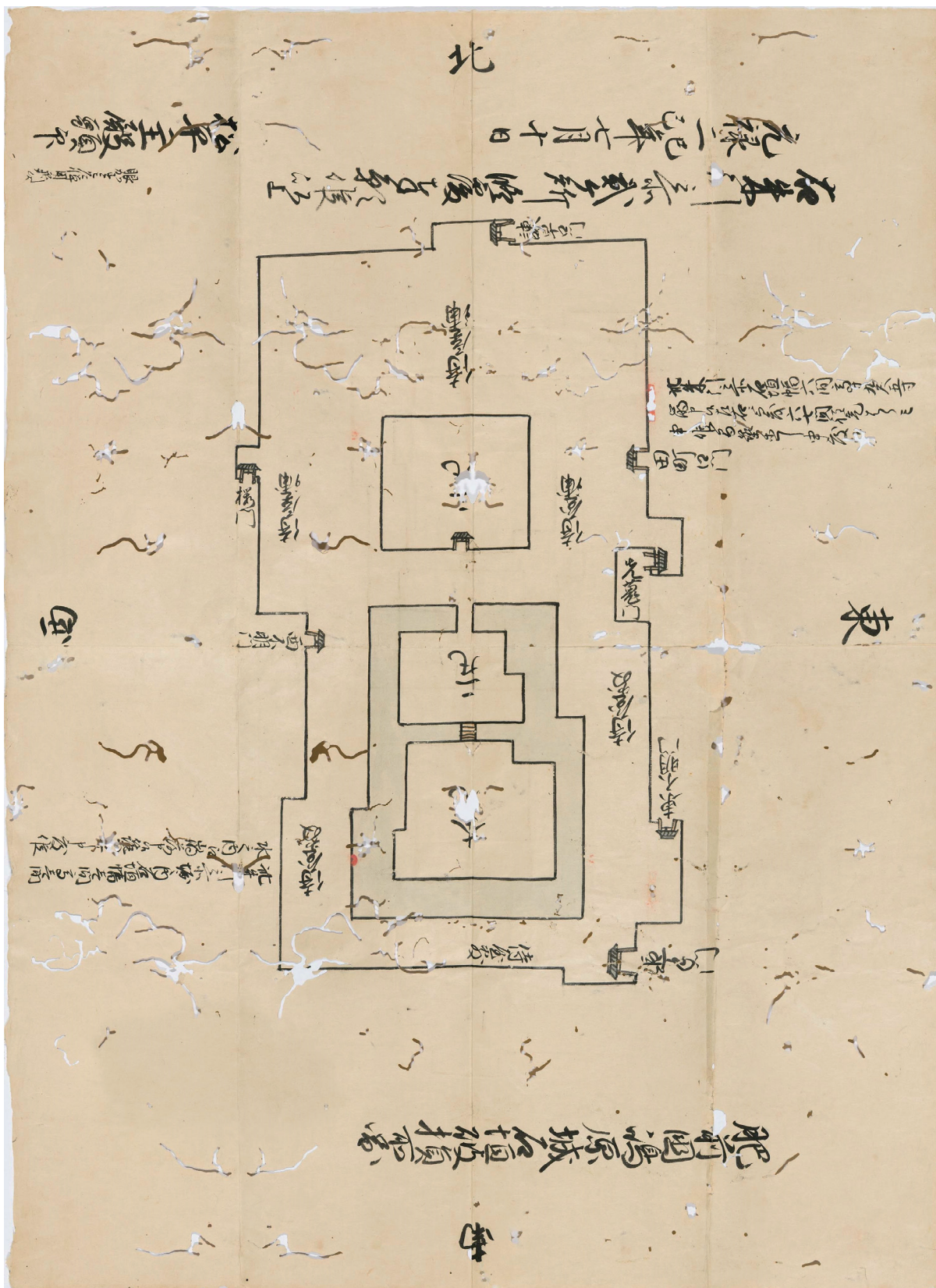
4-2 [幕府老中連署奉書] 本光寺 155



(包紙上書)	
松平主殿頭殿	大久保加賀守
戸田山城守	阿部豊後守
貞享元子	戸田山城守
(本文)	
以上	
肥前国嶋原城	
外曲輪東方	
石垣壱箇所崩候	
付而築直之事	
絵図之通得	
其意候如元可有	
修補候恐々謹言	
貞享元子	
五月廿七日	
阿部豊後守	正武 (花押)
戸田山城守	忠昌 (花押)
大久保加賀守	忠朝 (花押)
松平主殿頭殿	

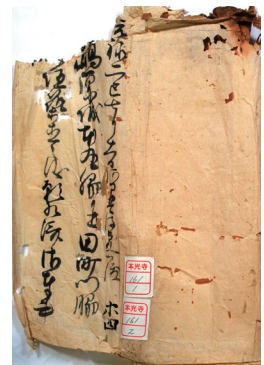
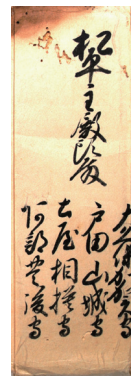


5-1 肥前国嶋原城石垣破損所図 (1689・元禄2) 本光寺1



(文面)  
 右朱引之所式ヶ所修覆奉願候以上  
 元禄二己巳年七月十日  
 眼かすミ乍憚用印判候  
 松平主殿頭印

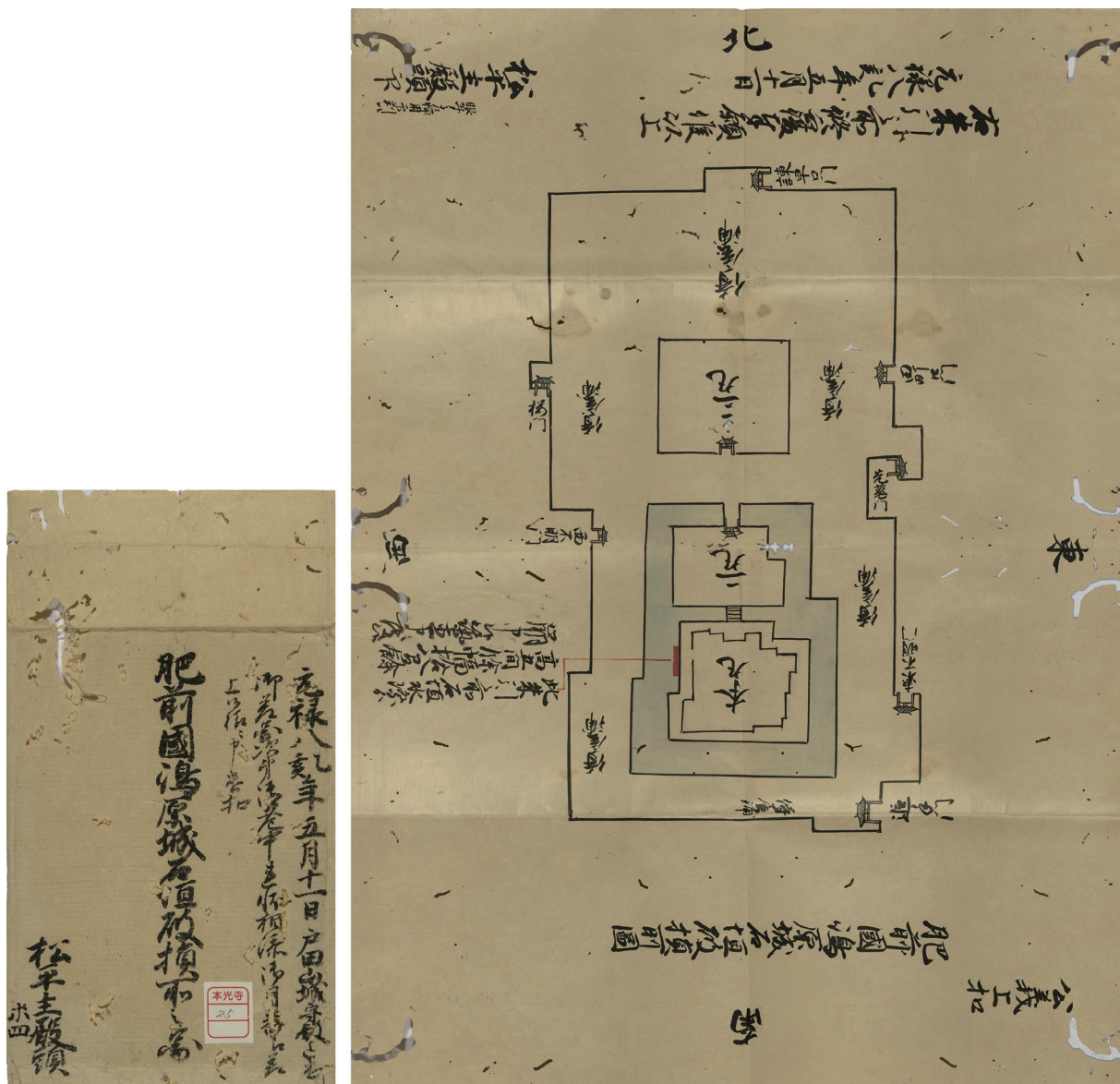
5-2 [幕府老中連署奉書] 本光寺 161-1



(包紙上書1)  
 元禄二己巳七月十一日阿部豊後守殿御渡  
 亦四  
 鳴原城本丸脇并田町門脇  
 □〔石〕垣築直之儀願相濟御奉書  
 (同2)  
 大久保加賀守  
 戸田山城守  
 松平主殿守殿  
 土屋相模守  
 阿部豊後守  
 (本文)  
 以上  
 肥前国嶋原城  
 本丸坤之方石垣  
 巷ヶ所三丸良之方  
 田町口門脇石垣  
 巷ヶ所或崩或孕候  
 付而築直度之由  
 絵図朱引之趣  
 得其意候如元可有  
 修補候恐々謹言  
 元禄二己巳  
 七月十六日  
 阿部豊後守 正武 (花押)  
 土屋相模守 政直 (花押)  
 戸田山城守 忠昌 (花押)  
 大久保加賀守 忠朝 (花押)  
 松平主殿頭殿



6-1 肥前国嶋原城石垣破損所図（1695・元禄8）本光寺 25



(包紙上書)

元禄八乙亥年五月十一日戸田山城頭殿迄遣  
御差図次第御老中連状相添御月番之差  
上候様ニ申遣扣

肥前国嶋原城石垣破損所之図

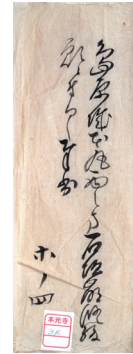
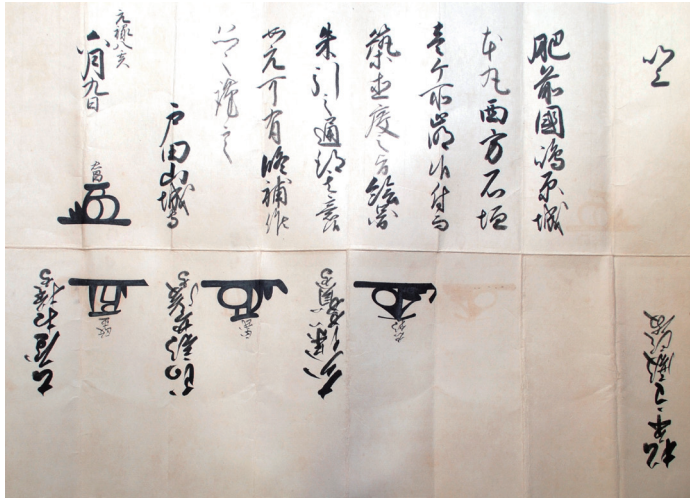
松平主殿頭  
木四

(文面)

右朱引之所修覆奉願候以上  
元禄八乙亥年五月十一日

眼かすミ乍憚用印判候  
松平主殿頭印

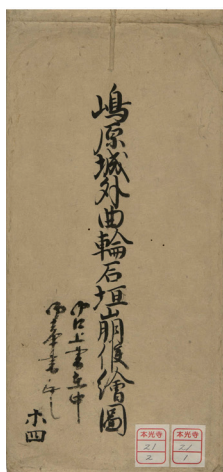
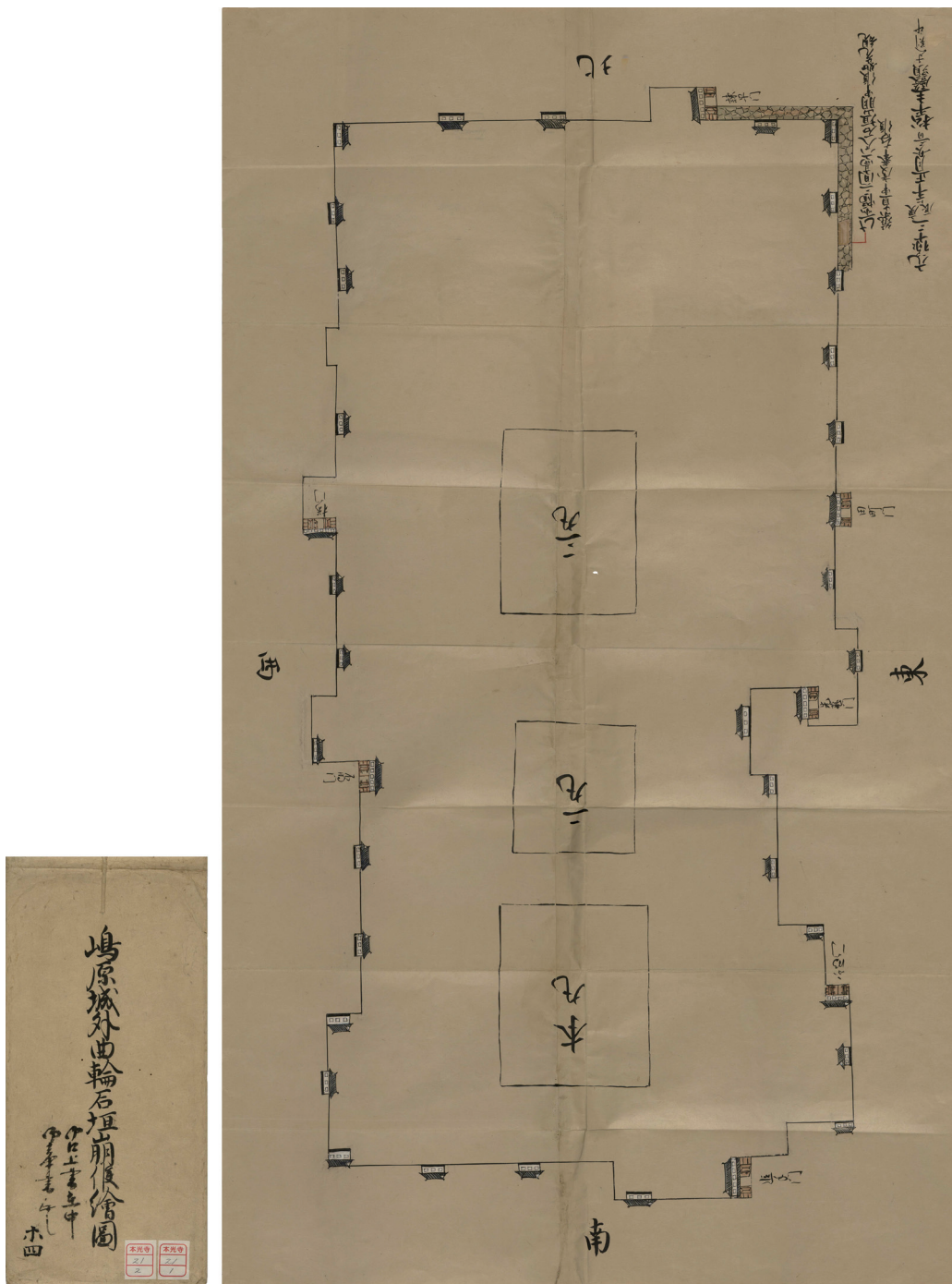
6-2 〔幕府老中連署奉書〕本光寺 34



<p>(包紙上書1)</p> <p>島原城本丸西之方石垣崩修覆 願二付而之奉書</p> <p>ホノ四</p>	
<p>(同2)</p> <p>大久保加賀守 阿部豊後守</p>	
<p>松平主殿頭殿 土屋相模守 戸田山城守</p>	
<p>(本文)</p> <p>以上</p> <p>肥前国嶋原城 本丸西方石垣 壺ヶ所崩候付而 築直度之旨絵図 朱引之通得其意候 如元可有修補候 恐々謹言 元禄八亥</p>	
<p>六月九日</p>	
<p>戸田山城守 土屋相模守 阿部豊後守 大久保加賀守 松平主殿頭殿</p>	<p>忠昌 (花押) 政直 (花押) 正武 (花押) 忠朝 (花押)</p>



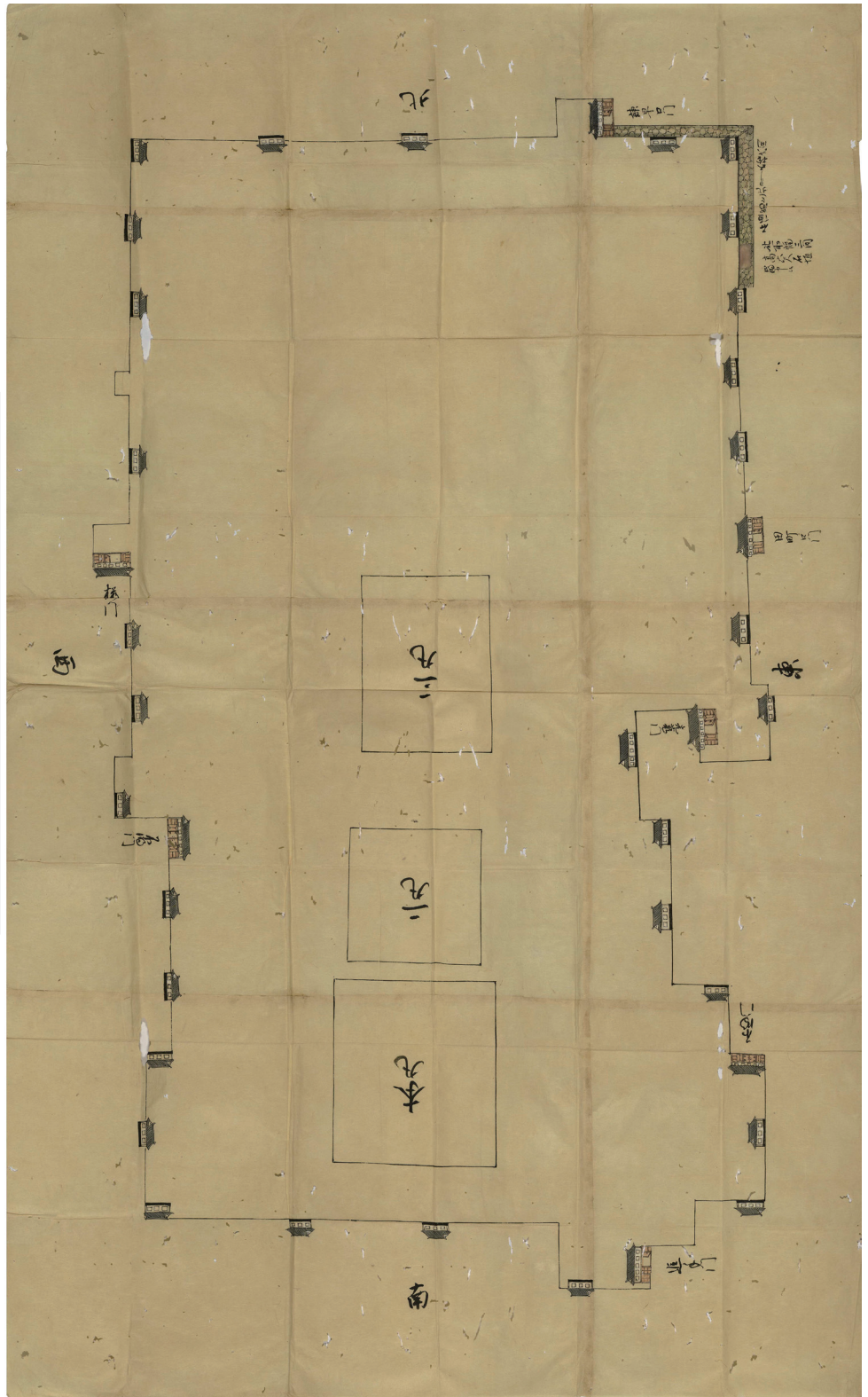
7-1 島原城外曲輪石垣崩候絵図 (1700元禄13・正月) 本光寺 21-1



(封筒上書)  
 嶋原城外曲輪石垣崩候絵図  
 御口上書在中  
 御奉書無之  
 本四

(文面)  
 此所幅三間高六尺石垣崩申候如先規  
 築直申度奉存候  
 元禄十三庚辰年正月廿三日  
 松平主殿頭すへ判計

7-2 [島原城外曲輪石垣崩修復願ノ添図] (1700・1・元禄13・正) 本光寺 22

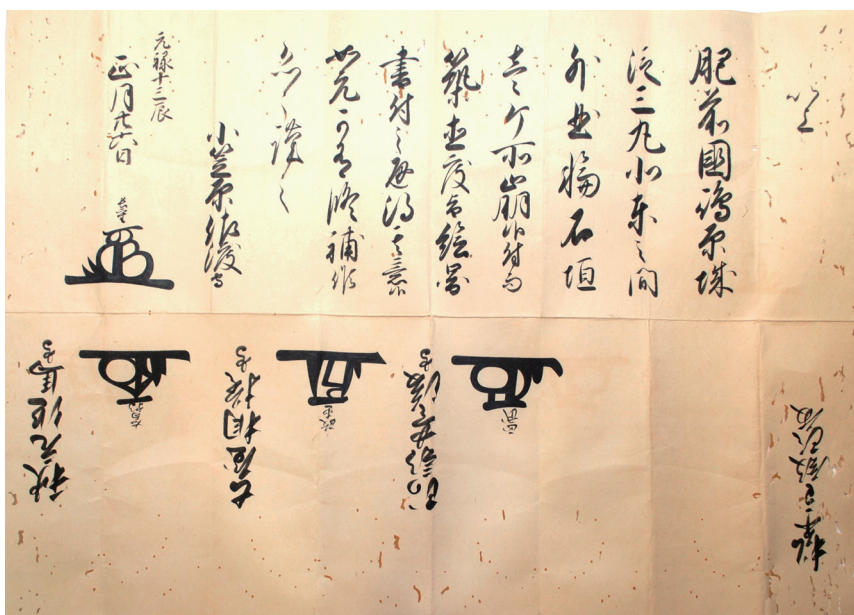


(封筒上書)  
 嶋原城外曲輪石垣崩候所築直伺候趣  
 御月番小笠原佐渡守殿之差出候絵図并口上書扣  
 右二付而之奉書  
 元禄十三庚辰年正月廿三日 小四

嶋原城外曲輪石垣崩候所築直伺候趣  
 御月番小笠原佐渡守殿之差出候絵図并口上書扣  
 右二付而之奉書  
 元禄十三庚辰年正月廿三日 小四



7-3 [幕府老中連署奉書] 本光寺 246

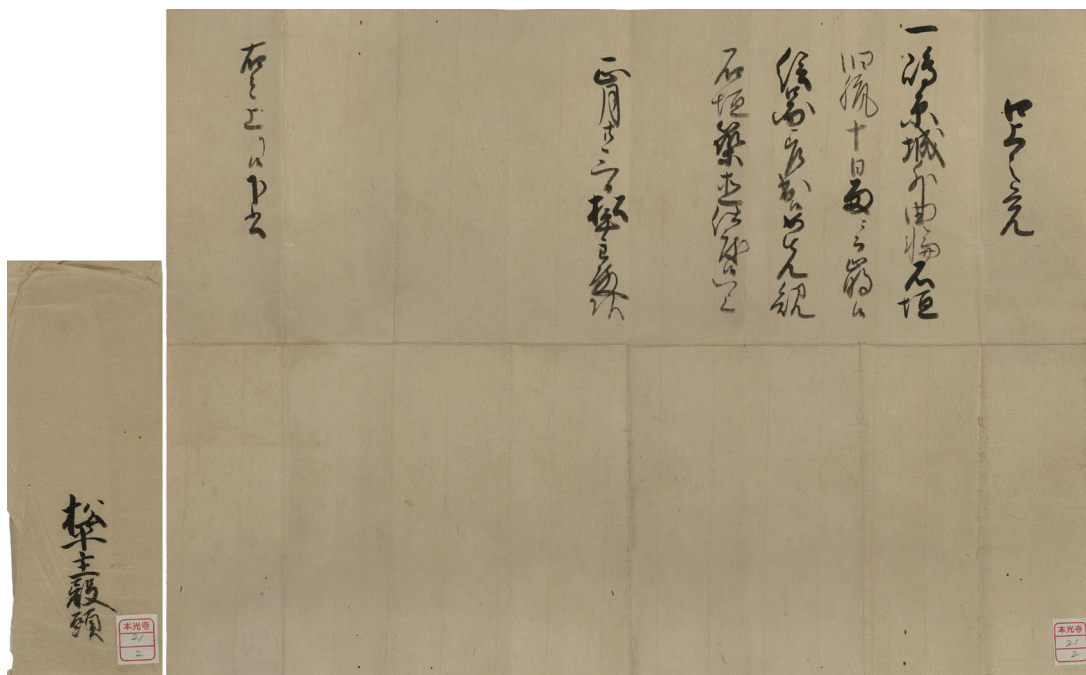


(包紙上書1)  
 嶋原城外曲輪石垣崩候所如元  
 可築直旨御奉書  
 元禄十三辰年正月廿七日小笠原佐渡頭より被渡

(同2)  
 阿部豊後守  
 土屋相模守  
 松平主殿頭殿  
 秋元但馬守  
 小笠原佐渡守

(本文)  
 以上  
 肥前国嶋原城  
 従三丸北東之間  
 外曲輪石垣  
 老ヶ所崩候付而  
 築直度旨絵図  
 書付之通得其意候  
 如元可有修補候  
 恐々謹言  
 元禄十三辰  
 正月廿六日  
 小笠原佐渡守 長重 (花押)  
 秋元但馬守 喬朝 (花押)  
 土屋相模守 政直 (花押)  
 阿部豊後守 正武 (花押)  
 松平主殿頭殿

7-4 口上之覚 本光寺 21-2



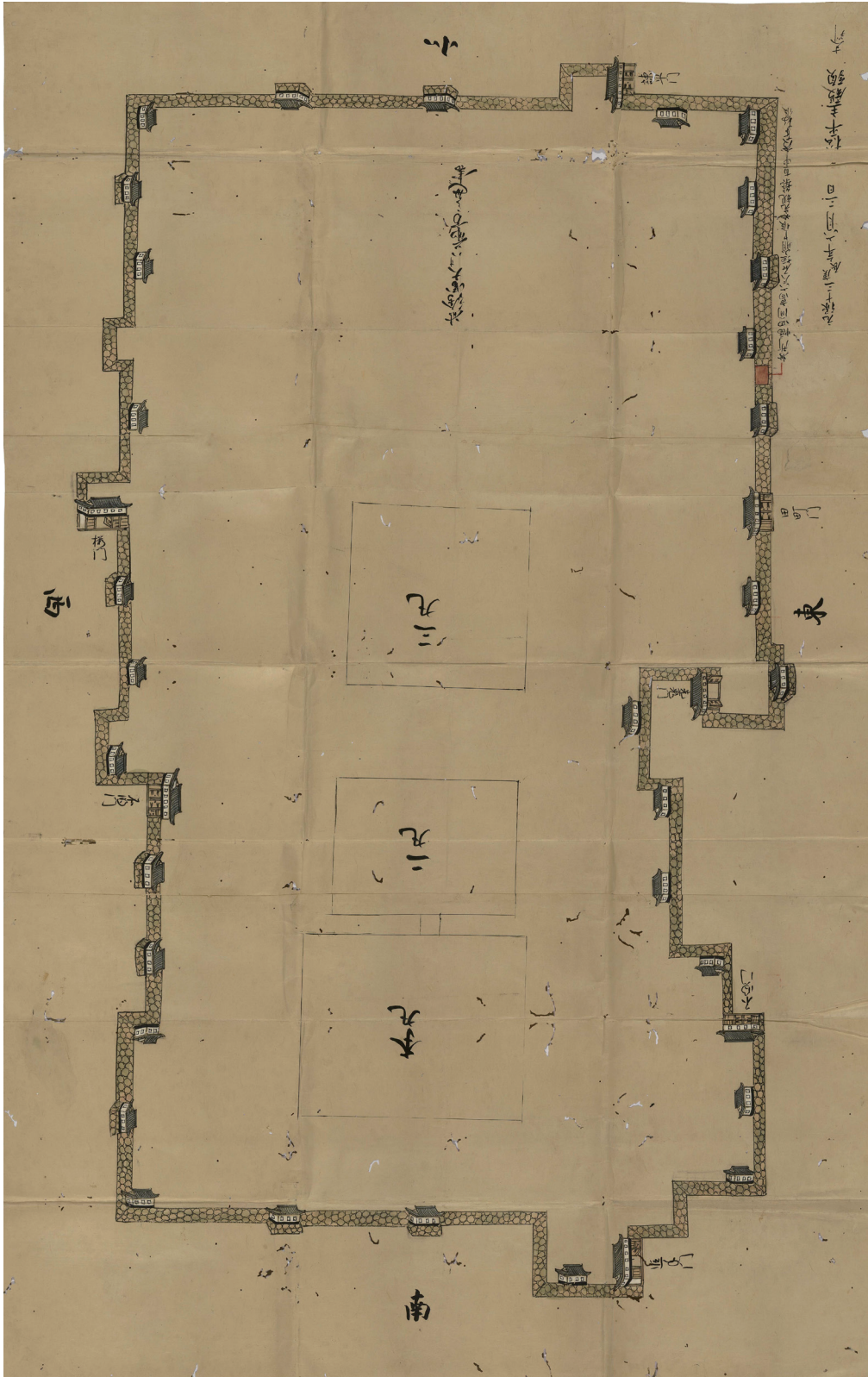
(包紙上書)  
松平主殿頭

(本文)  
口上之覚  
一 嶋原城外曲輪石垣  
旧臘十日雨ニ而崩候  
絵図差出候如先規  
石垣築直仕度候以上  
正月廿三日 松平主殿頭

右は上り候下書

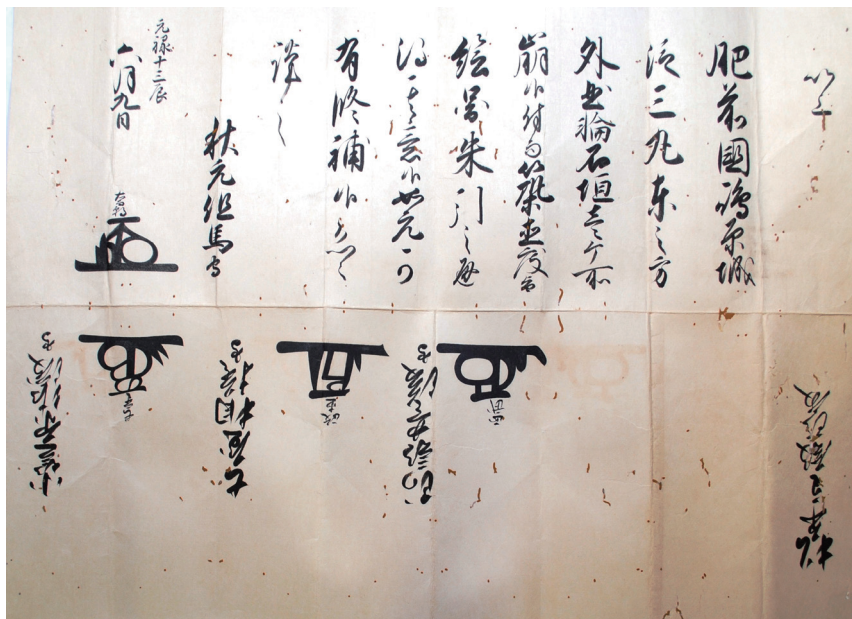


8-1 [島原城石垣崩修覆願図] (1700・6・元禄13・6) 本光寺 26



(文面)  
此所幅四間高六尺石垣崩申候如先規築直申度奉存候  
元禄十三庚辰年六月三日 松平主殿頭 すへ判

8-2 [幕府老中連署奉書] 本光寺 241



(包紙上書1)  
 元禄十三庚辰年五月「ママ、六カ」三日嶋原城外曲輪東之方石垣崩候付如先規築直仕度旨伺候処如元修補可致旨之  
 御奉書 一通  
 六月九日秋元但馬守殿二而岩永太左衛門請取

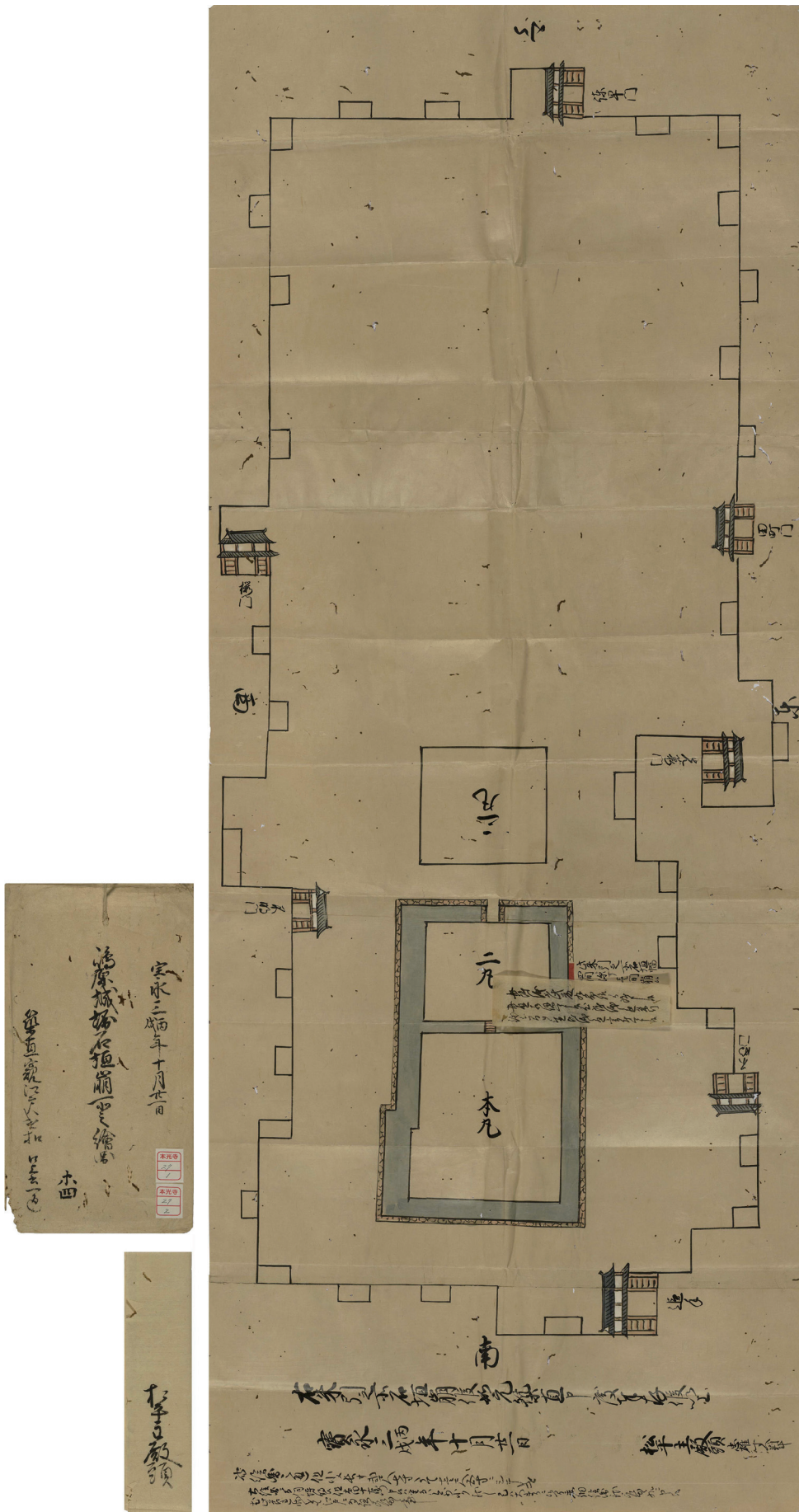
(同2)  
 阿部豊後守  
 土屋相模守

松平主殿頭殿  
 小笠原佐渡守  
 秋元但馬守

(本文)  
 以上  
 肥前国嶋原城  
 従三丸東之方  
 外曲輪石垣壱ヶ所  
 崩候付而築直度旨  
 繪図朱引之通  
 得其意候如元可有修補候恐々  
 謹言  
 元禄十三辰  
 六月九日  
 秋元但馬守 喬朝 (花押)  
 小笠原佐渡守 長重 (花押)  
 土屋相模守 政直 (花押)  
 阿部豊後守 正武 (花押)  
 松平主殿頭殿



9-1 嶋原城堀石垣崩所之絵図 (1706・宝永3) 本光寺 27-1



(封筒上書)

宝永三丙戌年十月廿一日

嶋原城堀石垣崩所之絵図

本四

築直窺江戸へ遣扣 口上書一通

(文面)

(付箋)

「此附紙如此藤九郎様ニ而附申候

此通相認可申候尤附紙之通朱引

致シ間ヲ置附紙之通書付可申候」

右朱引之所石垣崩候如元築直申度奉存候以上

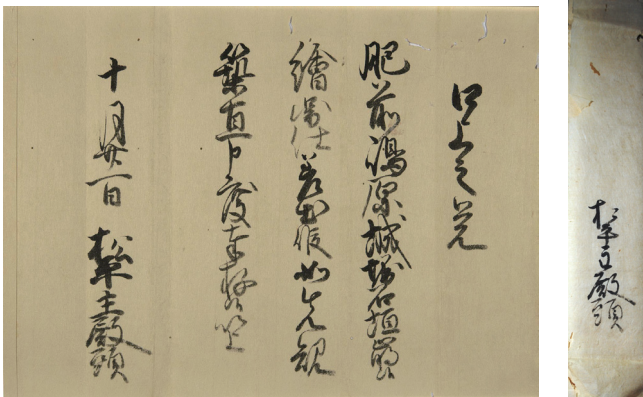
宝永三丙戌年十月廿一日 松平主殿頭 忠雄 すへ判計

此絵図之通但小メ長サ式尺七寸たて卷尺五寸ニシテ遣

右絵図ニ而伺埒明候但太田十右衛門申候ハ重而ハ今少小ク致し候是ハ大まかニ候間委細絵図致差出候様ニ申候

尤此節連状をも江戸ニ而認差出候事

9-2 口上之覚 本光寺 27-2



(包紙上書)

松平主殿頭

(本文)

口上之覚

肥前嶋原城堀石垣崩候

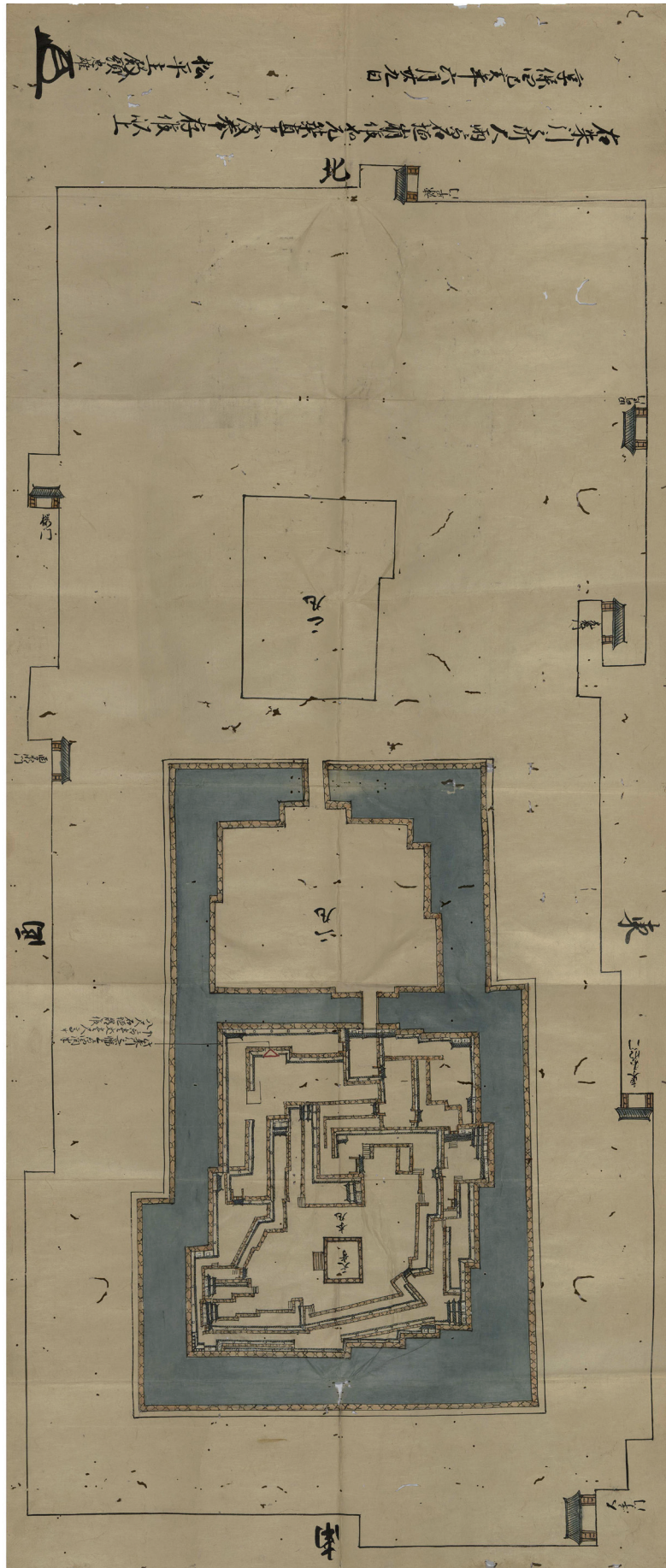
絵図仕差出候如先規

築直申度奉存候以上

十月廿一日 松平主殿頭



10-1 肥前国嶋原城絵図 (1719・享保4) 本光寺 29



肥前国嶋原城破損示  
 在九下方内岩崩海下石垣在箇下崩  
 右ノ亦元際損壊及至致各心  
 享保元年七月四日 松平之儀 判  
 右ノ邊 洞窟ノ上段全ク以信宗奉付  
 何事ハ概シテ 肥前国方ノ石垣中ノ

以下氏主ノ所  
 肥前国嶋原城絵図

(封筒上書)

此所如此直可被調候

肥前国嶋原城絵図

(文面)

右朱引之所大雨ニ而石垣崩候如元築直申度奉存候以上  
享保四己亥年六月廿九日 松平主殿頭 忠雄(花押)

(付箋1)

肥前国嶋原城破損所

本丸北方内曲輪塀下石垣壱箇所崩申候

右之所如元修補仕度奉願候以上

享保四己亥年七月四日 松平主殿頭判

名乗ニ不及

右之通ニ調直可被差出候此絵図書付之通ニ而ハ

何国之城とも崩所何方とも相知不申候

(同2)

小林五兵衛申候ハ

やはり

月日ハ六月廿九日ニ可被成候



④

一 公儀より相渡居候絵図ハ事之外大まかニテ、門々のわたりも違居候、此度之絵図太手前ニてこしらへ候板絵図ニテ仕立候、尤前方も右板絵図ニテ仕立差出ニ付不得已、其上委方可然と右板絵図ニてこしらへさせ候已後ハ 公義より渡り居候絵図と見合相認可申事也、為心得記之

一 奉書連名之順違出候、前方もケ様ニ有之、其節御請ニハ座並順之通相認候と覚候、此度も可為其通哉ニ候へ共、為念奉書名順之通一通座置順之通一通兩様ニ認、江戸ニて様子次第第一通可相勤旨申遣候、山城殿役人え承候処、座並順之通ニてよく候、尤御用番え差出候様ニとの儀ニて、月番井上河内守殿へ差出由申来候事

一 石垣崩所朱引も前方ハ崩所計朱ニていたし、夫より墨ニて引出し、此朱引之所何様■書候へとも、夫ニてハ右朱引の所とハ不被申候、朱ニて引出し候様ニとの義也

一 此絵図之書付所あの方より好之通也、最初遣候絵図ニハ三丸門等も不書遣、是もこのミニて門等書付候

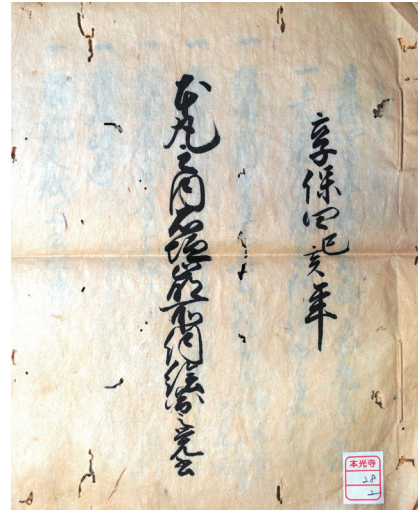
一 絵図返り候付絵図并連状ニも月日不書付遣、江戸ニて書候様ニ申遣、尤此段も江戸より申来候、前方絵図之通六月廿九日日付ニいたし差出由申来候、此度之絵図九月十二日便ニ遣候へとも、奉書日付ハ七月廿八日之日付ニて相渡候義ハ、十月廿二日山城殿より奉書出候

⑤

一 已後山城殿え楓武太夫罷越候節、小林又兵衛申候ハ、先頃之絵図ハ御本丸ニ納り候、あの方扣ニ入候間、美濃紙ニても清張紙ニてもざつと絵図こしらへ、書付ハ前方之通致越候様ニ申来付、美濃紙ニていたさせ遣候、尤判ハ不居也

10-2 本丸之内石垣崩所伺絵図之覚書 本光寺 28-2

① (表紙)  
 享保四己亥年  
 本丸之内石垣崩所伺絵図之覚書  
 享保四亥年五月大雨ニ而本丸之内石垣  
 一ヶ所崩候付築直伺絵図之覚  
 一 絵図之内書付所奥書此絵図之通  
 但二ノ丸より内之門々名ハ不書付、此訳奥ニ  
 記  
 一年号月日名居判計 名乗なし  
 一 絵図紙間ニ合巻枚  
 一 折様此通  
 一 袋証文紙上書此通



② 絵図ニ添連状  
 一筆啓上仕候、肥前国嶋原城本丸北方内曲輪堀下石垣老箇所崩申候、絵図仕差上候、右之所如元修補仕度奉願候、恐惶謹言  
 六月廿九日  
 井上河内守様  
 久世大和守様  
 戸田山城守様  
 水野和泉守様  
 参人々御中  
 右ニ付奉書  
 以上  
 肥前国嶋原城本丸北方内曲輪堀下石垣老箇所崩候付而、如元修補被致度旨絵図朱引之通得其意候、願之通可被申付候、恐々謹言  
 享保四亥  
 七月廿八日  
 連名之順違出ル  
 戸田山城守  
 水野和泉守  
 久世大和守  
 井上河内守  
 松平主殿頭殿

③ 右御請  
 七月廿八日之御奉書拜見仕候、肥前国嶋原城本丸北方内曲輪堀下石垣老箇所崩候付而、如元修補仕度旨、以絵図朱引奉候候処、願之通可申付旨被仰下有難奉存候、恐惶謹言  
 十一月十二日  
 井上河内守様  
 久世大和守様  
 戸田山城守様  
 水野和泉守様  
 御請ニハ座並順之通認ル、此訳奥ニ記  
 一 絵図一卷用、板倉八右衛門・奥山幸左衛門、懸ル前二差出候扣を以書立六月廿九日差遣候処、戸田山城殿御用番ニ而段々好有之、二ノ丸より内之門々名も可有、委細に書付候様ニとの義にて不相濟右絵図ハ返ル、江戸ニ而承候趣下絵図致差越、其趣を以又絵図仕立遣、外側門々ハ古来より唱来ル名ニ候、二ノ丸より内之門々ハ古来より名無之紛敷に付、只今私二唱候名ニ候、夫故急度 公儀え差出書付ニハ難致ニ付、外ニ美濃紙ニ而絵図こしらへ二ノ丸より内之門々之名付札ニいたし、私ニ申候名ニても可書付訳ニ候ハ、江戸ニ而書候様ニ申遣候得共、右之段申達候処、なにの沙汰なく二之丸より内之門々之名ハ不書載由申来候、尤初遣候絵図御右筆衆などハ是ニても事可濟儀と被申候由之事



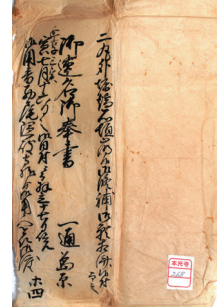


11-2〔絵図封筒〕本光寺 840



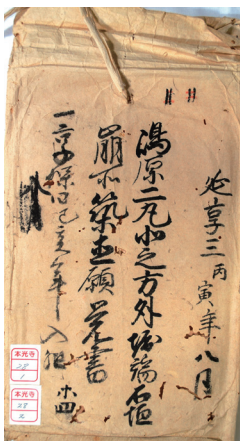
(上書)  
肥前国嶋原城二丸外堀端石垣崩所絵図  
松平主殿頭 亦四

11-3〔幕府老中連署奉書〕本光寺 268



(包紙上書1)  
二丸外堀端石垣崩候御修補御願相濟候付而之  
御連名御奉書 一通 島原  
延享三寅 亦四  
寅七月十六日之御日付二而翌十七日晚  
御用番西尾隠岐守様より御用人を以御渡  
(同2)  
松平主殿頭殿 酒井雅楽頭  
堀田相模守 西尾隠岐守  
以上  
肥前国嶋原城  
二丸北之方外堀端  
石垣老箇所崩候付而  
築直之事絵図  
朱引之趣得其意候  
願之通如元可被申付候  
恐々謹言  
延享三寅  
七月十六日  
西尾隠岐守 忠直 (花押)  
堀田相模守 正亮 (花押)  
酒井雅楽頭 忠知 (花押)  
松平主殿頭殿

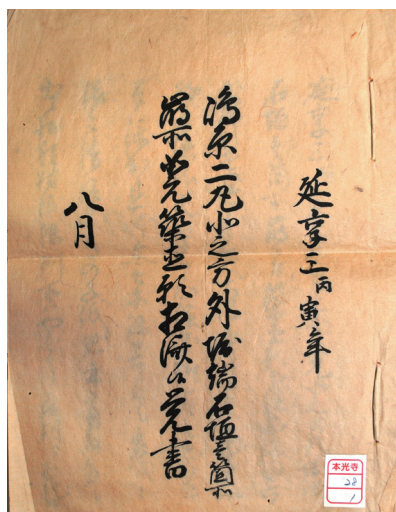
11-4〔覚書封筒〕本光寺 28 (10-2、11-5が入る)



(上書)  
延享三丙寅年八月  
嶋原二丸北之方外堀端石垣  
崩所築直願覚書  
亦四  
一享保四己亥年之入組



11-5 嶋原二丸北之方外堀端石垣壱箇所  
崩所如元築直願相濟候覚書 本光寺 28-2



① (表紙)  
延享三丙寅年  
嶋原二丸北之方外堀端石垣壱箇所  
崩所如元築直願相濟候覚書  
八月

延享三丙寅年四月上旬、二丸北之方外堀端石垣壱箇所崩候付、築直願下絵図認、同廿六日飛脚二遣、御右筆組頭大橋藤九郎方へ留守居持参認様見望来候処、絵図扣二有之通相直、并添書連状文言等認呉候由にて差越候、依之清絵図鳥の子紙ニ認、再御用番方ニ出候扣、程村紙認判所ハやはり居判卜相記候

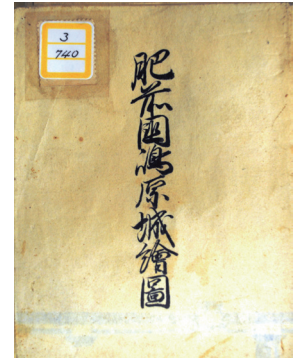
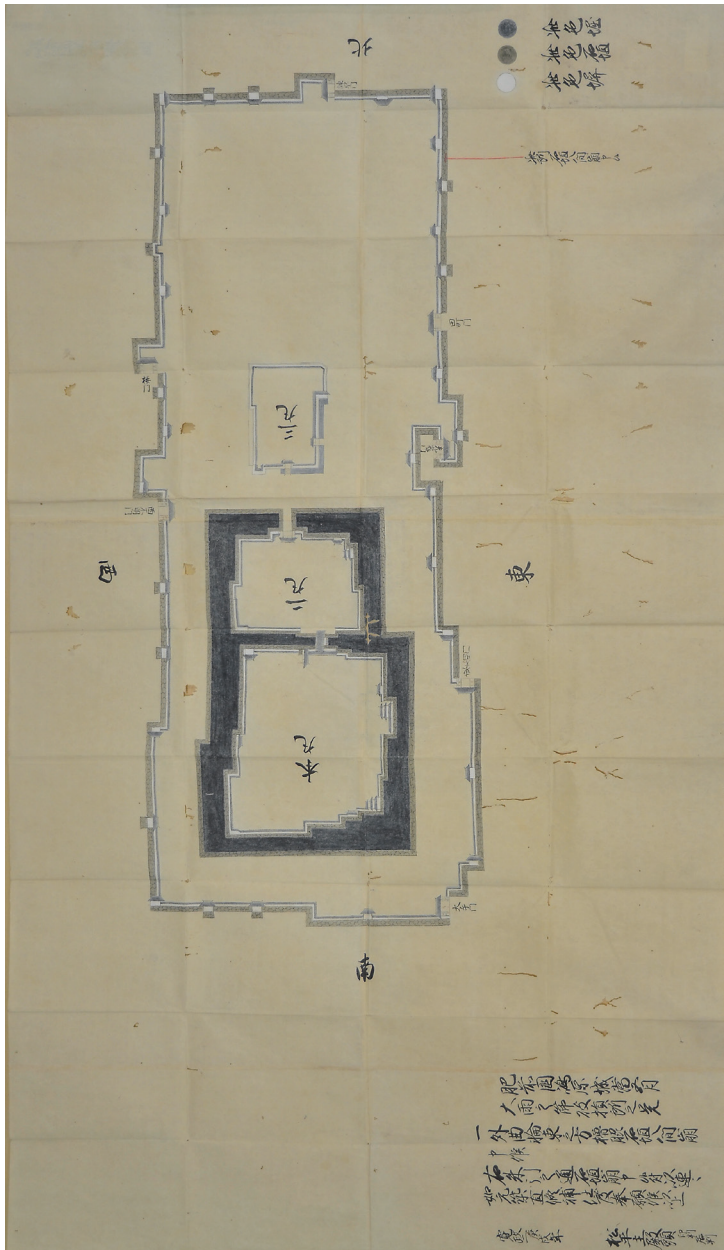
②  
尤銘々程村紙之袋ニ入、右二通六月廿日飛脚二遣候処、又々藤九郎方へ留守居持参内見貫候処、認様宜敷由、崩所数ヶ所ニ候へハ、下絵図にて窺入候得とも、崩所壱箇所故、夫ニ不及候間、直二清絵図扣共御用番へ差出候様差図ニ付、七月十三日御用番西尾隠岐守殿へ留守居持参連状相添差出候処、同十七日晚留守居被呼、城石垣修復願ニ付而之奉書之由用人を以被相渡由ニ而差越、尤築直願之通如元可申付旨也、依之御請八月九日日付ニ而八日便二遣候事、尤若下絵図ニ而伺可入哉と申越候付、是又美濃紙ニ而認、袋入二いたし遣候へとも、右之通下窺不入候事

但右石垣崩候義、三月下旬より四月上旬迄雨強降夫故ニも候哉、併 公義之は雨ニ而崩候と申儀は不申候事

絵図ニ相添出候連状  
一筆啓上仕候、肥前国嶋原城二丸北方外堀端石垣壱箇所崩候付而如元築直申度以絵図奉願候、宜御差図被成可被下候、恐惶謹言  
六月十八日  
松平主殿頭  
名乗判  
酒井雅楽頭様  
本多中務大輔様  
堀田相模守様  
西尾隠岐守様  
参人々御中

③  
右二付奉書如左  
以上  
肥前国嶋原城二丸北之方外堀端石垣壱箇所崩候付而築直之事絵図朱引之趣得其意候、願之通如元可被申付候、恐々謹言  
延享三寅  
七月十六日  
西尾隠岐守  
堀田相模守  
酒井雅楽頭  
松平主殿頭殿  
右御請  
先月十六日之御奉書拜見仕候、私在所肥前国嶋原城二丸北之方外堀端石垣壱箇所崩候付而築直申度以絵図朱引奉願候処、如元可申付旨被仰下難有奉存候、右御請為可申上如斯御座候、恐惶謹言  
八月九日  
松平主殿頭  
名乗判  
酒井雅楽頭様  
堀田相模守様  
西尾隠岐守様  
脇付なし  
但連状遣候以後本多中務大輔殿御役御免ニ付、右奉書加判無之、依而御請如右、且又御請宛名之順奉書ニ不順ニ出候而も、やはり座順之通認候而宜旨大橋藤九郎方ニ而申候、尤此度之奉書之名、座順之通ニ書出候事、勿論此度は隠岐守殿懸り故、奉書ニも座順之通ニ出候事

12 肥前国嶋原城絵図（1790 寛政2）長崎歴史文化博物館 3-740



(裏書)

肥前国嶋原城絵図

(文面)

肥前国嶋原城当五月

大雨之節破損所之覚

一外曲輪東之方櫓脇石垣八間崩

申候

右朱引之通石垣崩申候付以連々

如元築直修補仕度奉願候以上

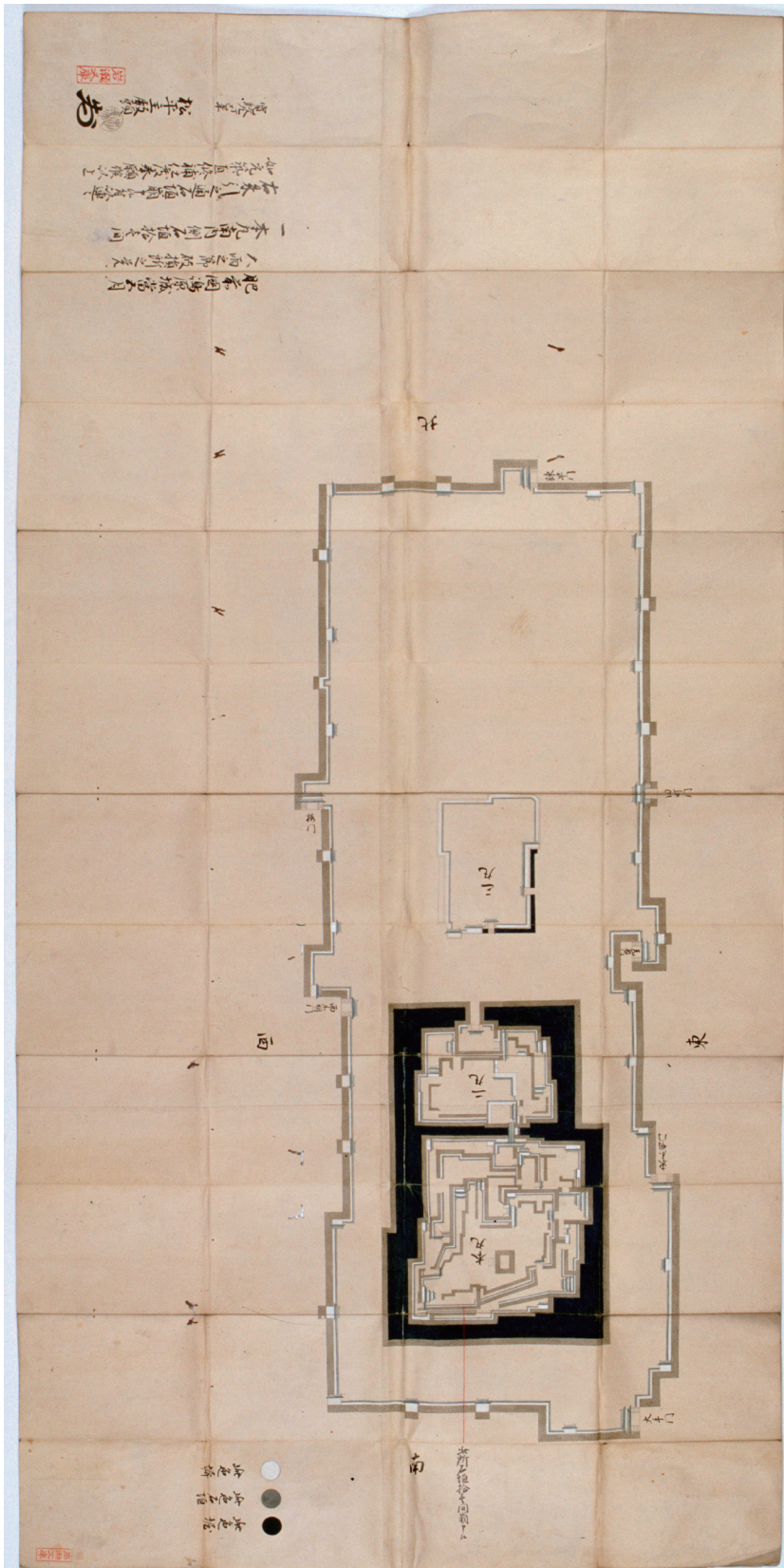
寛政二庚戌年 松平主殿頭

印判

居判

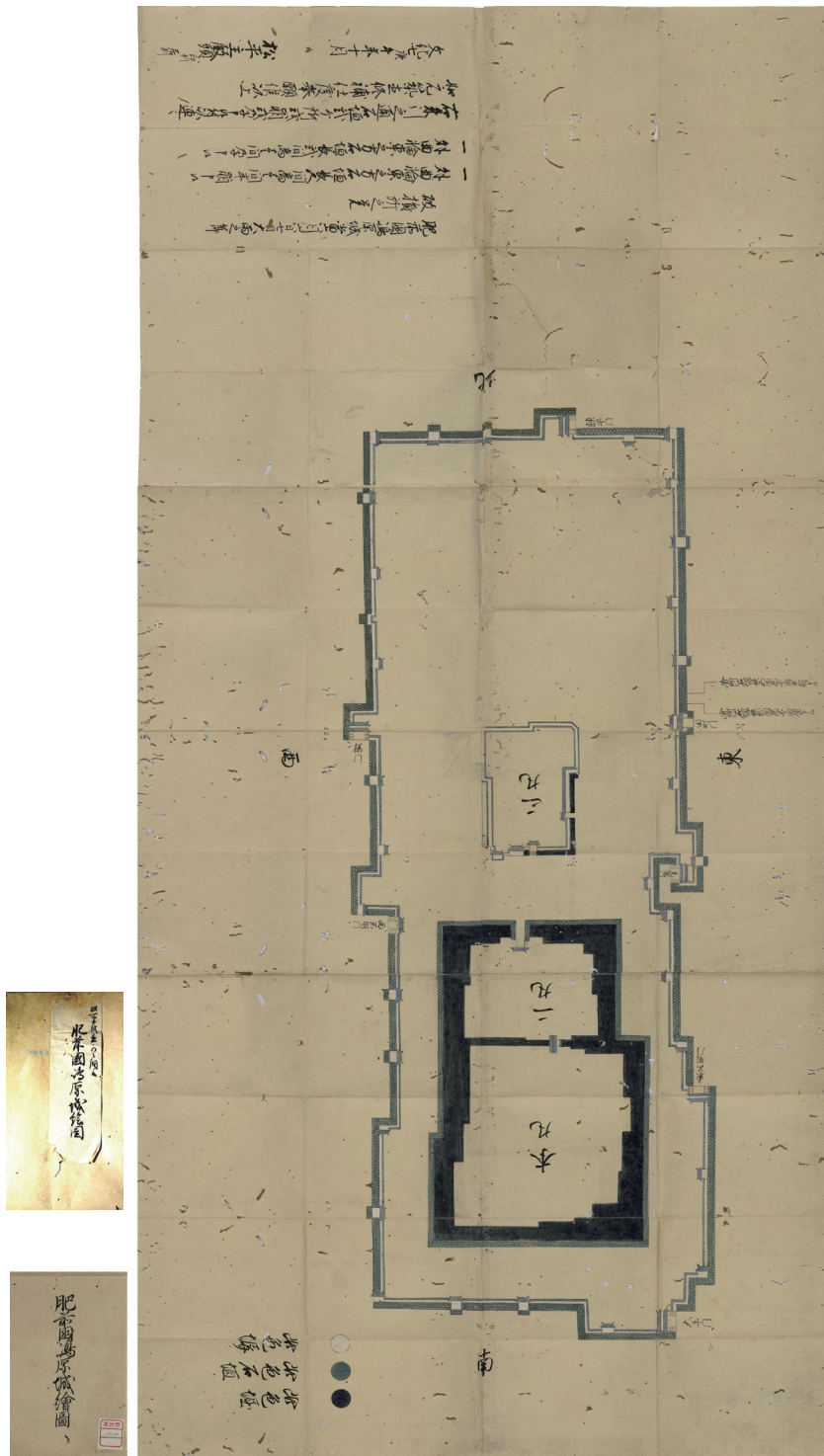


13 島原城絵図（1797・寛政9）西尾市岩瀬文庫 子—153



(文二面)  
肥前国嶋原城当五月  
大雨之節破損所之覚  
一本丸南内側石垣拾壹間  
右朱引之通石垣崩申候付以連々  
如元築直修補仕度奉願候以上  
寛政九丁巳年 松平主殿頭(印判)(花押)

14-1 肥前国嶋原城絵図（1810・文化7）本光寺 1918

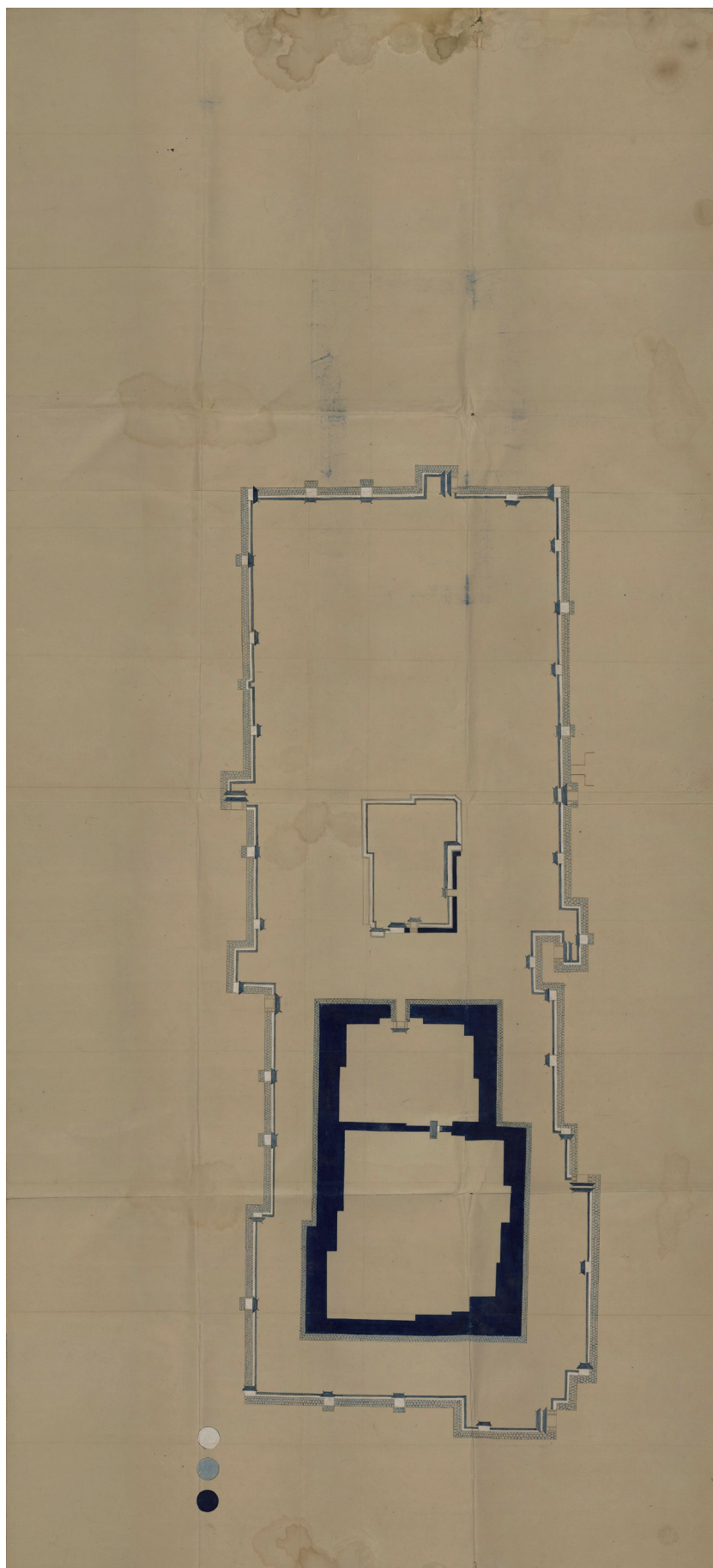


(裏書)  
肥前国嶋原城絵図  
(付札)  
此所如此直可被調候  
肥前国嶋原城絵図

(文面)  
肥前国嶋原城当六月六日七日大雨之節  
破損所之覚  
一 外曲輪東之方石垣長五間高老間半崩申候  
一 外曲輪東之方石垣長式間高老間孕申候  
右朱引之通石垣式ヶ所或崩或孕申候付以連々  
如元築直修補仕度奉願候以上  
文化七庚午年十月 松平主殿頭 印判 居判

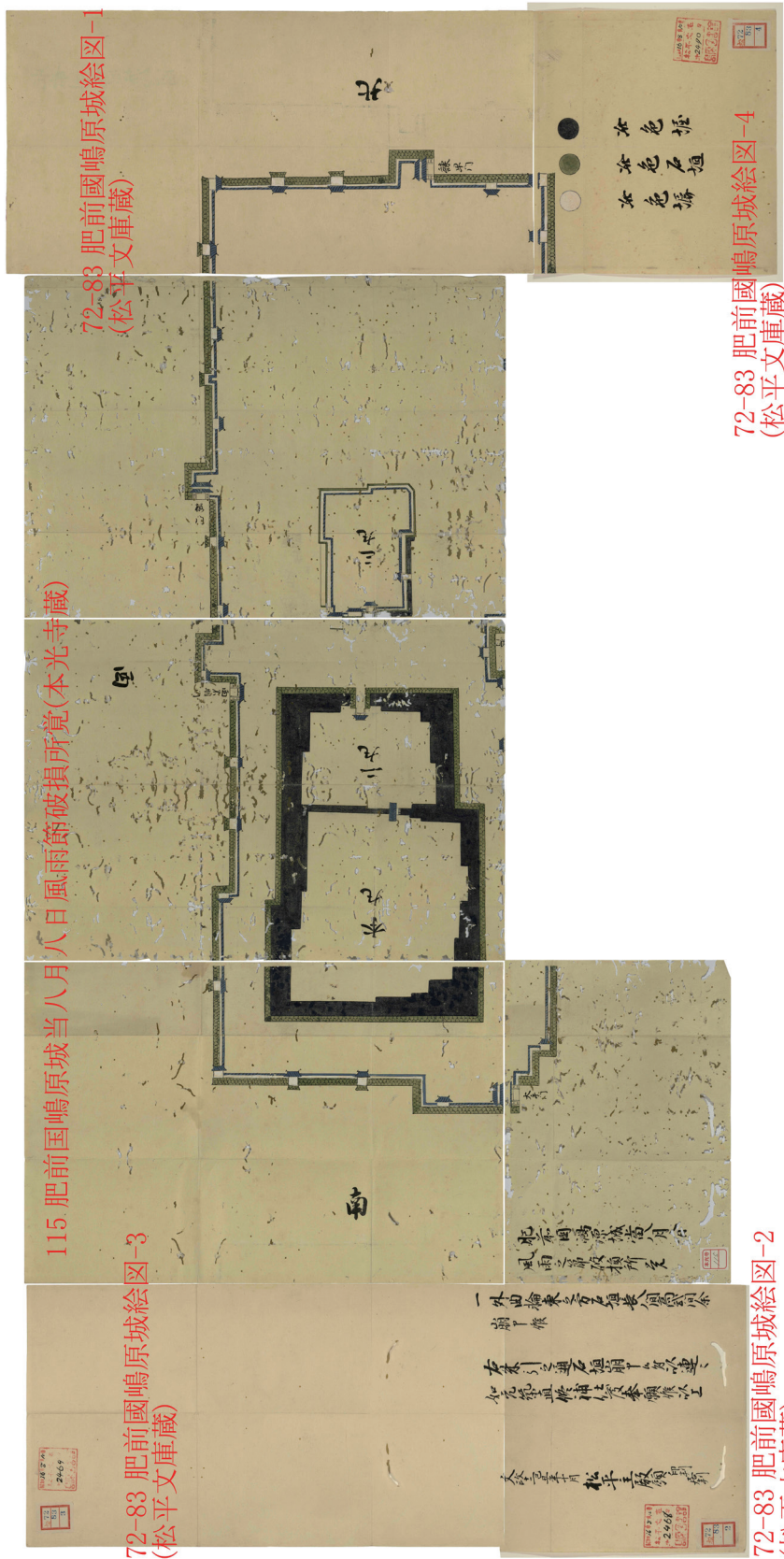


14-2 [島原城絵図] ([1810・文化7]) 本光寺 1868



15・肥前国嶋原城当八月八日風雨之節破損所之覚 本光寺 115 (1829・文政12)

・肥前国嶋原城絵図 松平文庫 72-83

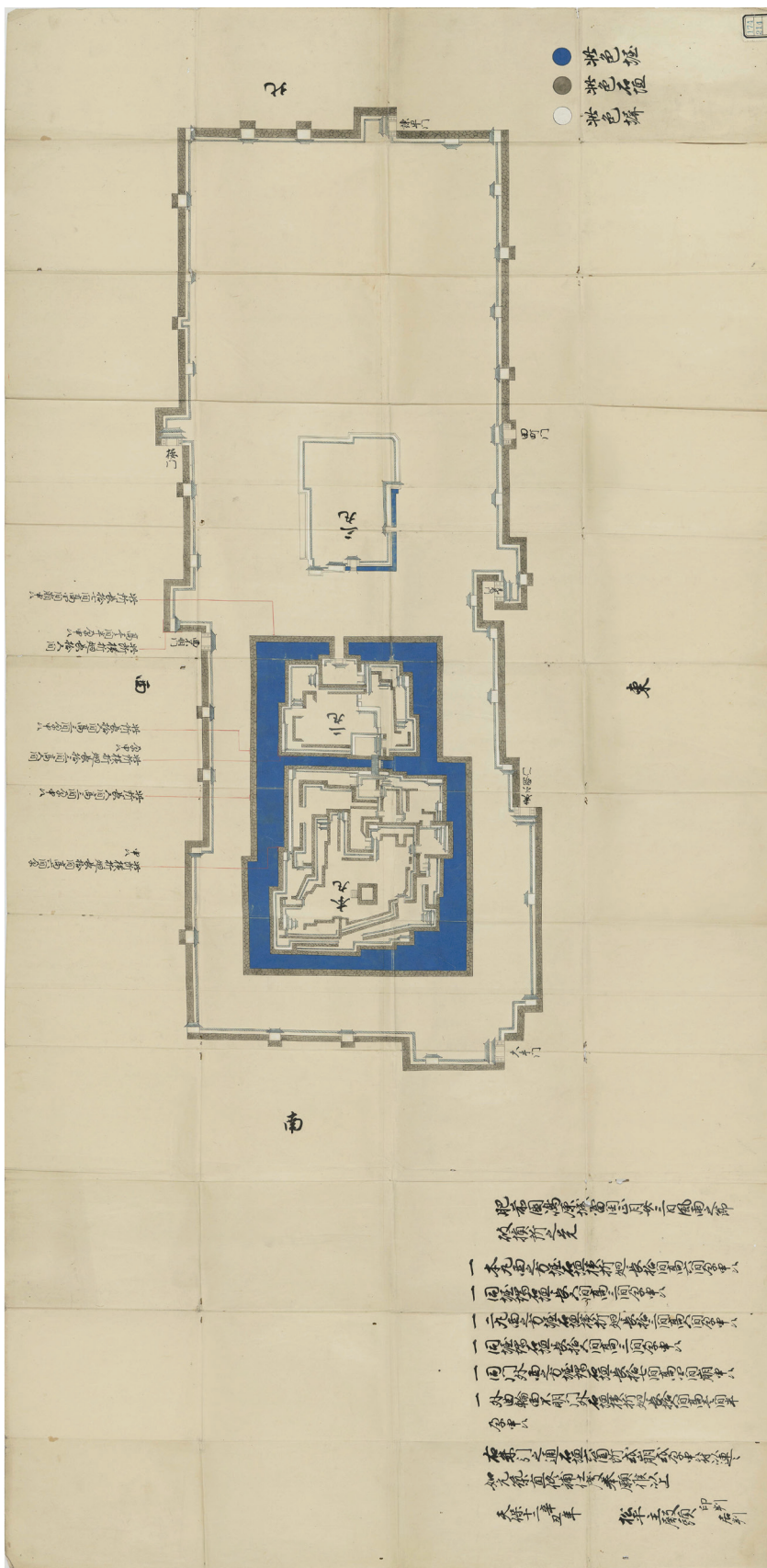


(文面)

肥前国嶋原城当八月八日  
風雨之節破損所覚  
一外曲輪東之方石垣長八間高式間余崩申候  
右朱引之通石垣崩申候付以連々  
如元築直修補仕度奉願候以上

文政十二年己丑年十月 松平主殿頭 印判 居判





肥前国嶋原城繪圖

(裏書)  
肥前国嶋原城絵図

(文面)

肥前国嶋原城当閨正月廿三日風雨之節

破損所之覺

- 一本丸西之方堀石垣横折廻長拾間高六間孕申候
- 一同堀端石垣長五間高三間孕申候
- 一二丸西之方堀石垣横折廻長拾三間高五間孕申候
- 一同堀端石垣長拾五間高三間孕申候
- 一同門外西之方堀端石垣長拾七間高四間崩申候
- 一外曲輪西不明門外石垣横折廻長拾五間高壹間半孕申候

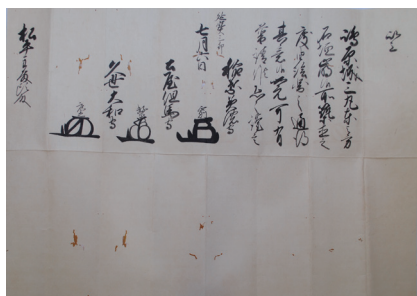
右朱引之通石垣六箇所或崩或孕申候付以連々  
如元築直修補仕度奉願候以上

天保十二辛丑年 松平主殿頭 印判 居判



☆補遺

1 老中連署奉書（1675・延宝3）本光寺 32

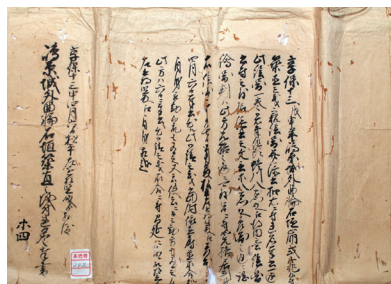
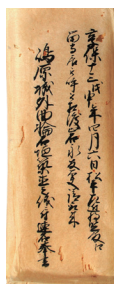


〔付札〕  
 「島原城三丸東之方石垣築直付奉書」

〔包紙上書〕  
 延宝三卯七月六日 水四  
 稲葉美濃守  
 松平主殿頭殿  
 久世大和守  
 土屋但馬守

〔本文〕  
 以上  
 嶋原城三丸東之方石垣崩候所築立之度由絵図之通得其意候如元可有普請候恐々謹言  
 延宝三卯  
 七月六日  
 稲葉美濃守 正則 (花押)  
 土屋但馬守 数直 (花押)  
 久世大和守 廣之 (花押)  
 松平主殿頭殿

2-1 老中連署奉書（1728・享保13）本光寺 242



〔包紙上書1〕  
 享保十三戊申年嶋原城外曲輪石垣崩或窠候付築直之義窺絵図并添書扣右二付連名奉書一通  
 此絵図一卷御右筆組頭蜷川八右衛門殿之得内意絵図書付之致様添書之文言等八右衛門殿差図之通二認  
 絵図判ハ此方先格之通二可致旨二付如先格居判計  
 右絵図三月廿七日御用番松平左近将監殿之差出「  
 四月六日奉書出候此御請之義當時依在府並承合候処自身被勤候衆も有之又は使者二而被勤方も有之候  
 此方ハ六日二奉書出御請之義承合二付間延二成候故翌日左近将監殿之自身相越  
 享保十三申四月六日松平左近将監殿より相渡  
 嶋原城外曲輪石垣築直之儀付連名之奉書  
 水四  
 〔同2〕  
 享保十三戊申年四月六日松平左近将監殿之留守居被呼被相渡岩永友太夫請取来  
 嶋原城外曲輪石垣築直之儀二付連名奉書  
 〔同3〕  
 水野和泉守  
 松平左近将監

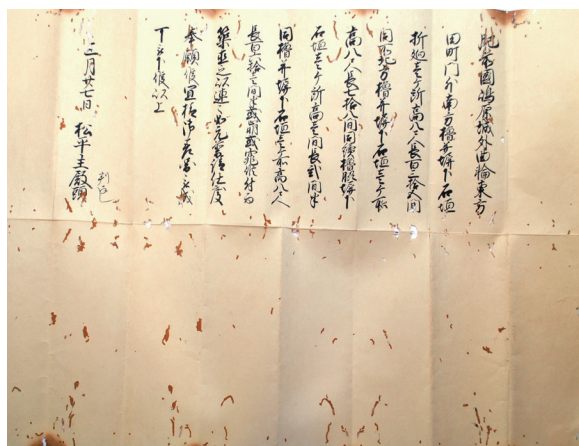


(本文)  
以上

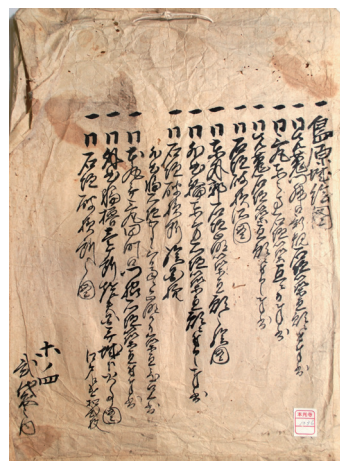
肥前国嶋原城外曲輪  
東方田町門外南方櫓并  
塀下石垣折廻壱ヶ所同所  
北方櫓并塀下石垣壱ヶ所  
同続櫓脇塀下石垣壱ヶ所  
同櫓并塀下石垣壱ヶ所或崩  
或窕候付而築直之事  
絵図朱引之通得其意候  
以連々如元可有普請候  
恐々謹言  
享保十三申  
三月晦日

松平左近将監 乗邑 (花押)  
水野和泉守 忠之 (花押)  
松平主殿頭殿

2-2 扣 ([1728・享保13]) 本光寺 161-2



3 [絵図奉書等包紙] 本光寺 1036



(端裏書)「扣 松平主殿頭」

肥前国嶋原城外曲輪東方  
田町門外南方櫓并塀下石垣  
折廻壱ヶ所高八尺長百三拾五間  
同所北方櫓并塀下石垣壱ヶ所  
高八尺長七拾八間同続櫓脇塀下  
石垣壱ヶ所高老間長貳間半  
同櫓并塀下石垣壱ヶ所高八尺  
長百六拾老間半或崩或窕候付而  
築直之以連々如元普請仕度  
奉願候宜様御差図被成  
可被下候以上  
判なし  
三月廿七日 松平主殿頭

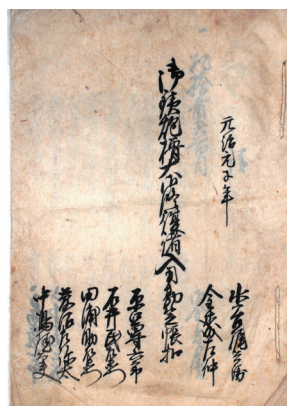
一 島原城絵図  
一 同先蒐門虎口新規石垣築直願二付奉書  
一 同三丸東之方石垣築直二付奉書  
一 同先魁石垣築直願二付而之奉書  
一 同石垣破損所図  
一 同東外廓石垣崩築直願之絵図  
一 同外曲輪東方石垣築直願二付而之奉書  
一 同石垣破損所絵図控  
一 外曲輪石垣五月三日事二而崩候付築直度口上書  
一 同本丸并三丸田町口門脇石垣築直付奉書  
一 同外曲輪櫓壱ヶ所焼失図并城下火事図  
一 同石垣破損所之図  
江戸之遣扣式枚  
ホノ四  
式袋之内



③	
百貳拾目	六寸廻竹四拾本
六拾三匁	中柄竹六束
三拾六匁	腕木貳拾四本
七拾九匁五分	道板五拾三枚
三匁	檜小割貳本
五拾四匁	野木舞三拾挺
九匁八分	杉裏側老挺
四匁七分四厘	杉籬縁老挺
貳拾七匁	杉瓦棧四挺
一 札五貫百九拾貳匁分七厘九毛	諸品代
内	
八匁老分八厘四毛	老寸釘四百本
貳百五匁五分三厘	老寸五分釘六千五百本
八拾五匁三分七厘四毛	老寸釘千五百三拾本
三拾四匁九分六厘八毛	老寸五分釘四百本
貳百八匁六分九厘貳毛	三寸釘千八百七拾本
六百拾六匁三厘貳毛	四寸釘貳百千七百六拾本
六百五匁九分八厘八毛	五寸釘千八百拾本
貳拾貳匁三分貳厘	長瓦釘八本
五百九匁老分七厘五毛	瓦釘三百六拾五本
貳拾老匁分八厘	六寸平銼四挺
四匁貳分	釘銅拾五匁
九百七拾老匁分六分六厘六毛	白灰五拾三石
三百四拾目三分七厘五毛	布苔三拾八貫九百目
六百三拾四匁分	革筋四拾五貫三百目
三拾八匁分五厘	中塗筋七石六斗五升
七百拾匁老分	赤土七百八拾九杯
百五匁	杉皮五拾坪

④	
四匁貳分	草藁四拾五束
老匁分六厘	榎柶繩老把
四拾目八分貳厘四毛	中繩貳拾七束
九分	松葉搔貳本
貳分六厘老毛	■老
八匁	太平墨四拾挺
貳匁四分	渋四升
三匁貳分	紺屋刷毛貳枚
九匁八分	百田紙七帖
一 札五匁四分	居越料
内	
老匁六分	太田長藏日数二日
八分宛	柴田喜久太夫
	内田時助
	原口兼之助
	杯突かへ
	榮之進
六分	小久保良左衛門
拾三貫六百五匁六分三厘老毛	
差引	
三貫五匁六分三厘老毛不足	

4 御鉄炮櫓大御修覆諸入用勘定帳扣 (1864・元治元) 松平文庫 市費購入 811-1



①

請	一 札拾貫六百目	御金方より請
一	札七貫百老匁八分老厘式毛	諸雇賃
内	老貫五拾三匁四分	上大工式百人
	式百五拾五匁	中大工五拾人
	式百四拾六匁四分八厘三毛	下大工五拾老人
	七拾九匁五厘	上鑿彫七拾老人
	老貫三百八拾四匁三分七厘	上左官式百六拾九人七歩
	百三拾式匁四厘九毛	中左官式拾六人半
	百六拾八匁六分式厘五毛	下左官三拾五人半
	九拾七匁六分五厘	左官見習六拾三人
	九百四拾目	定雇四百七拾人
	老匁五分	同四ツ時より老人
	三拾老匁三分式厘	同立前拾五人六歩六厘

(表紙)

元治元年

御鉄炮櫓大御修覆諸入用勘定帳扣

水谷梶兵衛
金森佐仲
原口専六郎
石井民左衛門
田浦助左衛門
菅沼左弥太
中嶋陸太夫
馬場確三郎
山下馬之進

②

式百三拾五匁	同四百七拾人酒代
三分七厘五毛	同老人四ツ時より酒代
四拾三匁四分	定雇頭七兵衛久右衛門弥平
七百三拾目	酒代日数六十二日分
三匁	式匁雇三百六拾五人
式拾四匁三分八厘	同四ツ時より式人
百八拾式匁五分	同立前拾式人老歩九厘
七分五厘	同三百六拾五人酒代
式百六拾九匁三分式厘六毛	同四ツ時出式人酒代
八匁九分四厘四毛	八拾文雇式百式人
九百七拾八匁六厘式毛	同立前六人六歩八厘
四匁式分五厘	日雇八百六拾三人
三拾老匁三分七厘八毛	同四ツ時より五人
式百老匁	同立前式拾七人六歩九厘
内	櫓道懸定雇請負賃
百四拾式匁五分	外通二段道掛拾五間
五拾八匁五分	内通二段道掛拾三間
一 札老貫三百六匁式分四厘	竹木代
内	
七百六拾四匁五分式厘	杉丸太百四本
三拾五匁	杉丸太五本
四拾八匁	杉四寸貫八挺
六匁	杉式寸五歩角老挺
三拾八匁八分八厘	同六寸角老挺
拾六匁八分	五寸廻竹八本



☆その他

① (参考) 隣国様子聞合帳(部分) (神戸大学文学部日本史研究室蔵 『中川家文書』(1987 臨川書店) 所収 一八七号文書)

しま〔島〕原ノ覚

一 御しろ〔城〕内、御本丸と二ノ丸ノあい〔間〕ニ石かき〔垣〕たかゞ、〔高々〕見へ申候、ほり〔堀〕ノひろさ〔広〕三十間ほどニ見へ申候、又大てぐち〔手口〕西むき〔向〕、御本丸内ニ西東ノあい〔間〕ニ五六間ほど〔程〕ノほり〔堀〕御座候、くくらく〔極楽〕ノはし〔橋〕と見へ申候、又ほり〔堀〕より西殿町也

一 二ノ丸内ニ殿様ノ百疋馬家御座候ニ、皆々馬つなぎい〔繋居〕申候

一 玉薬之事、先殿ノ御だい〔代〕より過分ニ御座候間、いま〔今〕一二年ほど〔程〕不仕候由申候

一 ぶぐ〔武具〕御たしなミ〔嗜〕被成候ニより、鎧・矢ノね・てつほうミかき〔鉄炮磨〕申者十人つゝ〔宛〕いま〔今〕ニかかり申由承候、又御たしなミ〔嗜〕ニぐそく〔具足〕五六百りうほと〔領程〕御座候由申候

一 かミかた〔上方〕へ御座候らう〔浪〕人衆へ五六十人ほど〔程〕ニハ、いま〔今〕ニ銀子五まい〔枚〕十まいほとつゝ〔枚程宛〕ノ御心付被成候由申候

一 はや〔早〕舟三十ほと御座候よし〔由〕申候

一 奉公人かかへ〔抱〕 無御座候

一 新ぼり〔堀〕 無御座候

一 新ばし〔橋〕 無御座候

一 新ミち〔道〕 無御座候

一 へいぶしん〔塀普請〕 無御座候

一 やぐらぶしん〔矢倉普請〕 無御座候

一 あたけ〔安宅〕 無御座候

②

一 御家中四ツ物成御さだめ〔定〕被成候由申候、又出銀など〔等〕年ニより過分ニ出申ニ付、御侍衆御せう〔訴訟〕にて御座候か、こん〔今〕年よりハ御ゆるし〔許〕可被成候由承候と、やと〔宿〕主物語にて御座候

一 在々之儀、まへかど〔前角〕よりありつき〔有付〕申由承候、又ミしんかたなど〔未進方等〕ハ当年まで〔迄〕御のべ〔延〕被成、布もめん〔木綿〕にても御さん〔算〕用被成候て被下候由申候、又布もめん〔木綿〕も多所ノあき〔商〕人又とこころ〔所〕ノあき〔商〕人ねだん〔値段〕仕候てうりね〔売値〕ニ御さん〔算〕用ニたち申由承候

御家老

覚ノ衆之由申候 田中宗峯老

同 たかの〔多賀〕主水殿

同 岡本新兵へ殿

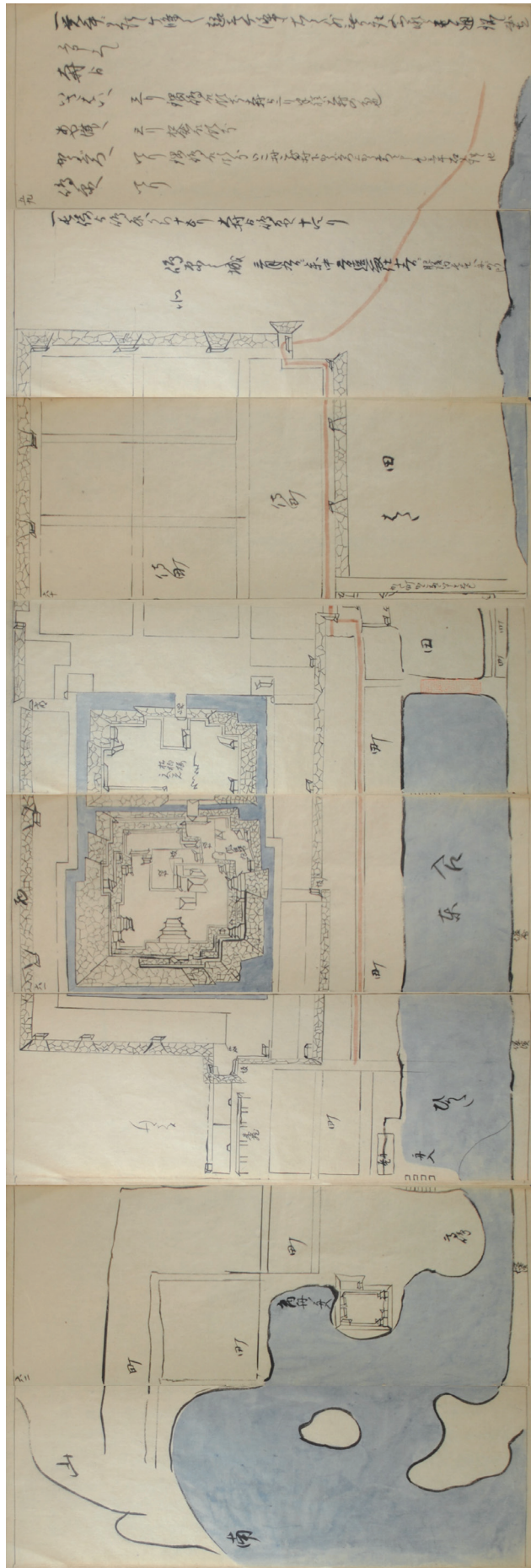
同 金木善兵へ殿

同 宇田清兵へ殿

此外ニハおぼへ〔覚〕ノ衆など〔等〕之儀不存候由申候

御ちなミ大村と承候、其外ハ不存候由申候

1 幕府隠密復命書（筑前筑後肥前肥後探索書）（部分） 長崎歴史文化博物館 13-296



③

一舟入二舟を引、のほせて置申所耆そう々々〔早々〕二石垣をつき〔築〕、上二舟蔵を作り申、  
 梶仕候、我等見申時、舟四そう〔艘〕分のほせ〔上〕申、石垣出来申候、又耆ツ出来かゝ  
 り申候、何程も出来申と見へ地行を引候所、今出来申をそへ八十間地を梶候て御座候  
 上二在申舟蔵場組申を見申候、三十間計の長さ二見へ申候

一此地つゝき〔統〕海の方ニ耆町四方程の高嶋と申小山の嶋をかこ〔水主〕・鉄炮之者  
 五六百人ニ而四五日地行御引候由、我等見申候時も百程ニ而地引海ほうめ〔埋〕かけ広  
 く仕候、何そたち申、おととい〔一昨日〕申候、何と御座候モ不存候と申者も有、大  
 工ニ尋申候へは、しほ〔塩〕浜ニなると哉と申候由申候

一是より南ニ嶋崎に西東五十五間北南廿五間之丸有、石垣高さ二間程南の方へい〔塀〕ニ  
 二重の矢倉耆ツ、南東の角ニ三重の矢倉有、東ニ二重の矢倉耆ツ、只の矢倉耆ツ、北  
 二矢倉耆ツ、多門有□北ニ門矢倉有、以上矢倉八ツ門矢倉多門共ニ  
 おとな衆

岡本正兵衛 千石

山本権兵衛 五百石

田中藤兵衛 千石

豊後殿〔松倉重政〕めいむこ〔姪習〕之由

大坂ニ而ひるいなき〔比類無〕手柄仕候由 大坂ニ而高名仕候由

出頭之者

多賀主水 二千石

吉田有左衛門 三百石

寺沢志摩殿おい〔甥〕申候由申候

奥村九目介 貳百石

寺沢半三郎 三十人ふち〔扶持〕

若衆あかり〔上〕

志摩殿にい〔居〕申候高島新蔵子

高島主膳 三十人ふち〔扶持〕

家中馬乗百五十三人御座候

宿ニとい申候へは百程可有御座由申候間

まわり候て侍屋敷かそへ〔敷〕申候

鉄炮之者貳百御座候由

一寛永三年之物成之儀少やけ候へ共、物成いつものことく〔如〕と申候

④

一きりしたんしうてい〔宗体〕の儀、去年上方より御  
 下候てより事之外きつく御せんさく被成末、しう  
 てい〔宗体〕ニ而ハ申候者共ころひ〔軀〕申由申候、  
 子共つかい〔使〕女之名ハ于今きりしたんの名をよ  
 ひ〔呼〕申候間、きりしたんかと尋申候へは、いに  
 しへ〔昔〕申なれしによつて于今よひ〔呼〕申候由  
 申候、大村ニ而も其分ニ于今きりしたん名ヲ申候  
 一町の長さ北南十三町、耆筋之所も有、六筋之所も有、  
 家の数千程御座候由申候、右之外覚書ニ御座候趣  
 耆ヶ条も無御座候、其通銘々ニ書立不申上候



① 幕府隠密復命書（筑前筑後肥前肥後探索書） 文面（部分）

嶋原之城 三月九日ニ参、中二日逗留仕、十二日ニ肥後内長す〔長洲〕へ舟ニのり申候

（島原城図）  
嶋原之城

一本丸東の方六十間、本丸さやの石垣高さ水より六間程、へい〔塀〕なり地より水へ三間程、両角に三重の矢倉有、此所の石垣高さ八間程、本丸の石垣ハさや御座候而、高さし〔知〕れ不申候、乍去六間之石垣之へい〔塀〕の上より見候へは、三間程上へ見へ申候

一南の方八十間、さや共両角ニ三重の矢倉之所石垣高さ八間、中の石垣高さ六間、本丸石垣高さし〔知〕れ不申候、六間の石垣之へい〔塀〕の上より三間程見へ申候、矢倉之外ハへい〔塀〕也、堀之広さ十五間、十三間之所も有、地より水へ三間程、堀ハ四方共二同前

一西の方七十六間半分、南石垣高さ八間、残る北の方石垣高さ六間、皆へい〔塀〕なり、六間之石垣之へい〔塀〕の上より本丸石垣三間見ゑ申し候

一北の方石垣四間程、是ハ三ノ丸へ出候所之石垣也、皆多門なり

一本丸ノ口北ニ有、坂之上り門の左右石垣高さ三間程、坂下本丸石垣高さ六間

一本丸矢倉数、三重の矢倉七ツ、二重の矢倉三ツ、門矢倉七ツ、合五ツ、さやニ南ニ矢倉七ツ、東ニ三重の矢倉七ツ、西ニ二重の矢倉七ツ、三ツ門矢倉七ツ、合五ツ也

一——本丸南東の角ニ四方取はなしのちん新敷出来申、式ツ有

一二ノ丸北南卅間、西東ハ本丸之広さ矢倉数七ツ門矢倉七ツ共本丸より下り候見付の丸馬や〔屋〕也、三ノ丸へ出口北口ろうかはし〔廊下橋〕也、橋の上十一間、堀ノ広さ十間

②

一二ノ丸の外目、二ノ丸西東六十間、北南六十間、東北西三方共ニ石垣高さ五間、地より水へ三間程、本丸の方石垣四間程、西ノ方ニ廿五間之多門、十間之多門あり、四方共ニ矢倉之外ハへい〔塀〕也

一矢倉数六ツ、門矢倉・多門共ニ堀之広さ四方同前

一侍町広さ城之南かまへ〔構〕のきわ〔際〕より北へ九町四十間、西東式町四十間

一口、北ニ七ツ、西ニ七ツ、南ニ七ツ、東ニ七ツ、合五ツ、何も門矢倉有

一石垣高さ北西南三方ハ二間、東の石垣高さ四間町の方也

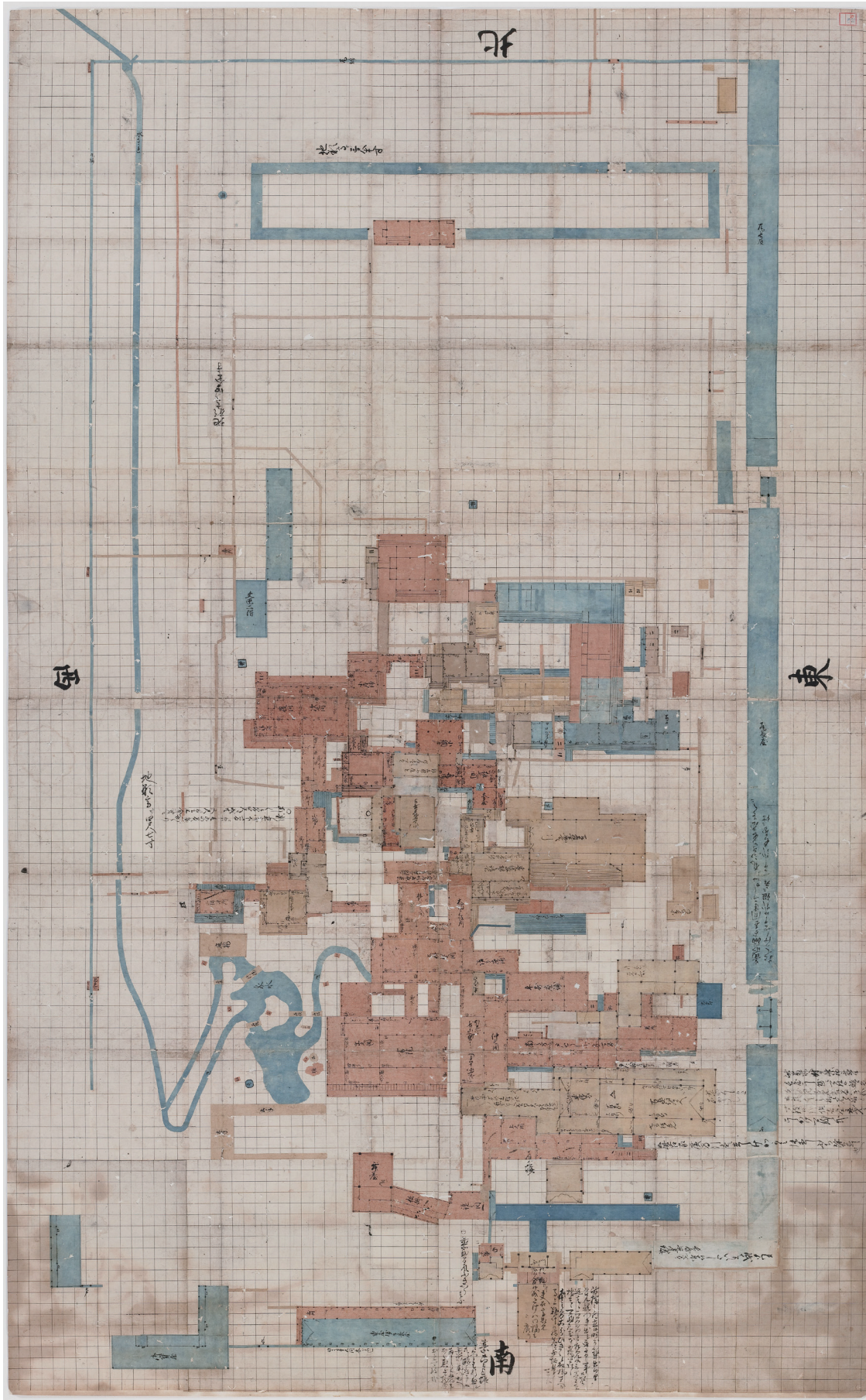
一矢倉東の方二十七、南ニ五ツ、西ニ二十四、北ニ五ツ、已上四十七也、門・矢倉共ニ四方堀なし、四方共にへいあり〔塀有〕

一へい〔塀〕のつくろい〔繕〕本丸南の角より四十間程、腰板より上ノしら〔白〕土のきの白土つけなおし〔付直〕申候、三ノ丸の門・矢倉之南のつま〔妻〕より東へ五六間、下地より仕なおし〔直〕申候、多門のつま〔妻〕より東へ五六間、下地より仕なおし〔直〕申候、外かわ〔側〕のへい〔塀〕北三四間、同其近所ニ二間、へい〔塀〕下地より仕なおし〔直〕申候、西の方ニ廿五間、廿一間、八間、九間、

四間、五間之所十四所、下地より仕なおし〔直〕申候、はやぬり〔早塗〕候て御座候所も有、其内矢倉も式ツ西の方計仕なおし〔直〕申候、南の方外かわ〔側〕石垣之下町之前ニ米蔵有、其うしろに屋敷式ツ出来申候、うしろ〔後〕西南の角ニ矢倉七ツ出来申候

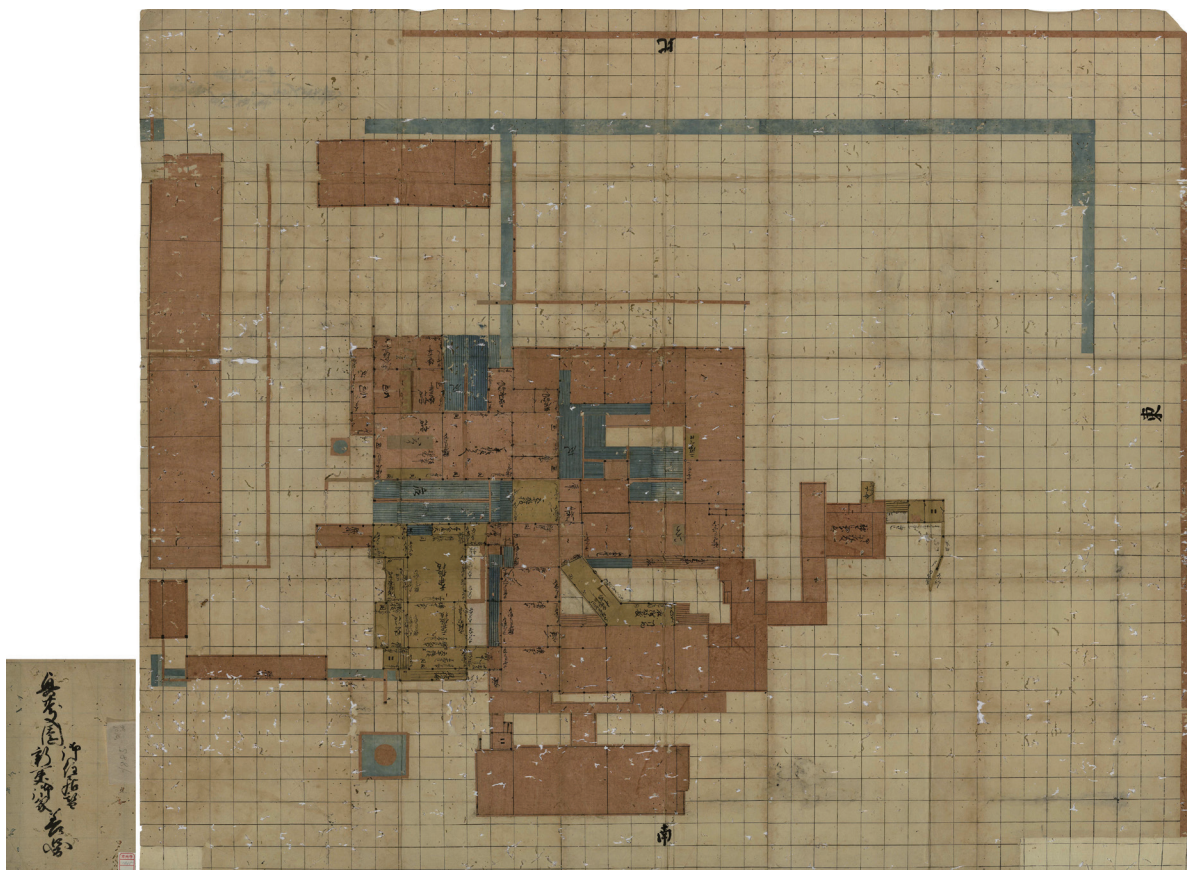
一本丸之内ニ東の方の三重の矢倉のたい〔台〕石垣矢倉共ニ新敷御座候間、いつ比出来候ととい〔間〕申候へは、老年五月雨の中ニくずれ〔崩〕候て、六月より仕、一目九月ニ調申候由申候、三ノ丸ろうか〔廊下〕橋のきわ〔際〕東南の角の石垣も新見申候、是も石之矢倉と同前ニくすれ〔崩〕、仕なおし〔直〕申候由申候

2三ノ丸絵図 松平文庫 72-89





3-1 興慶園御住居替新建御家差図 本光寺 1885

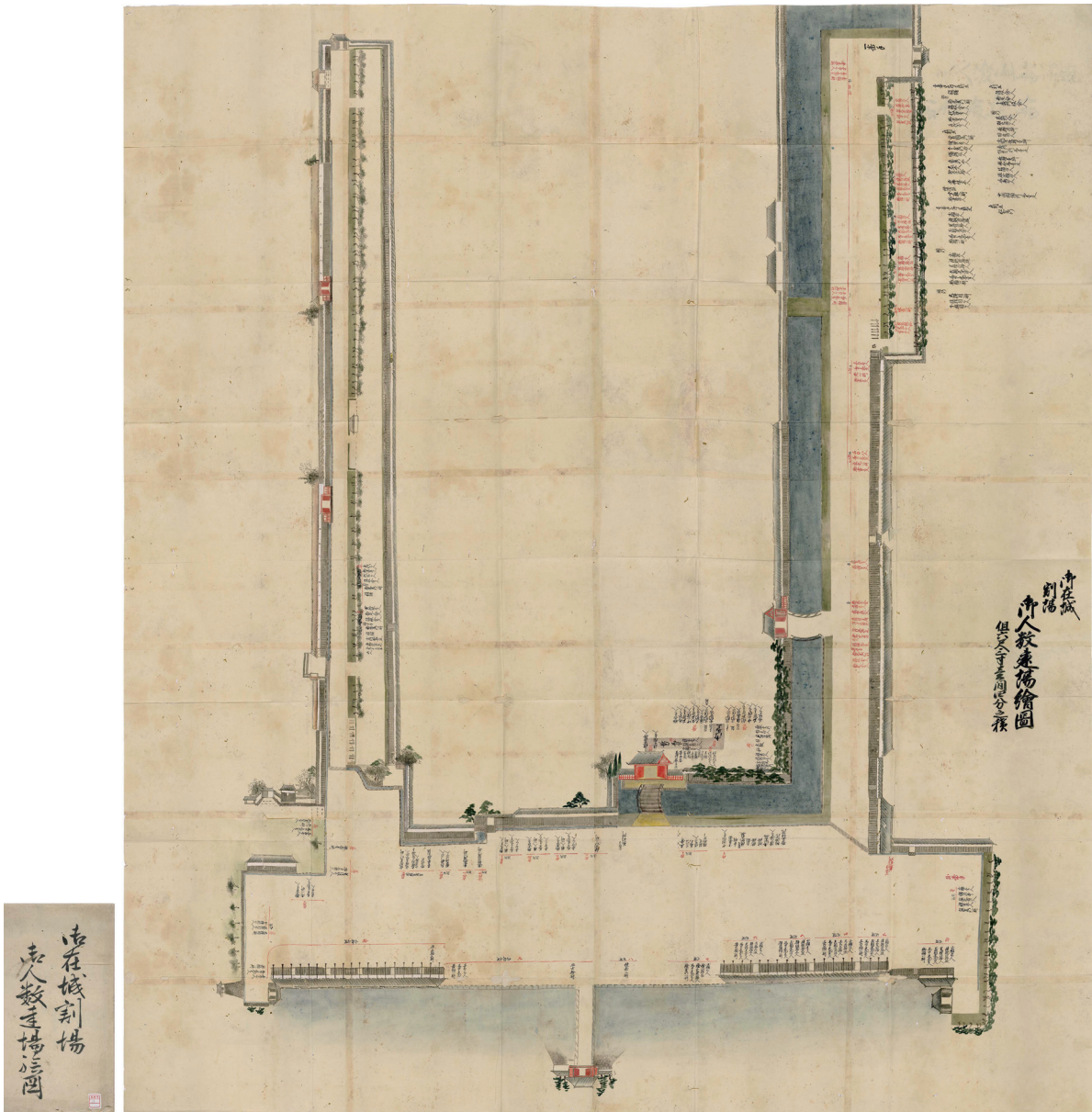


3-2 〔興慶園図〕 本光寺 1886





4 御在城割場御人数建場絵図 本光寺3

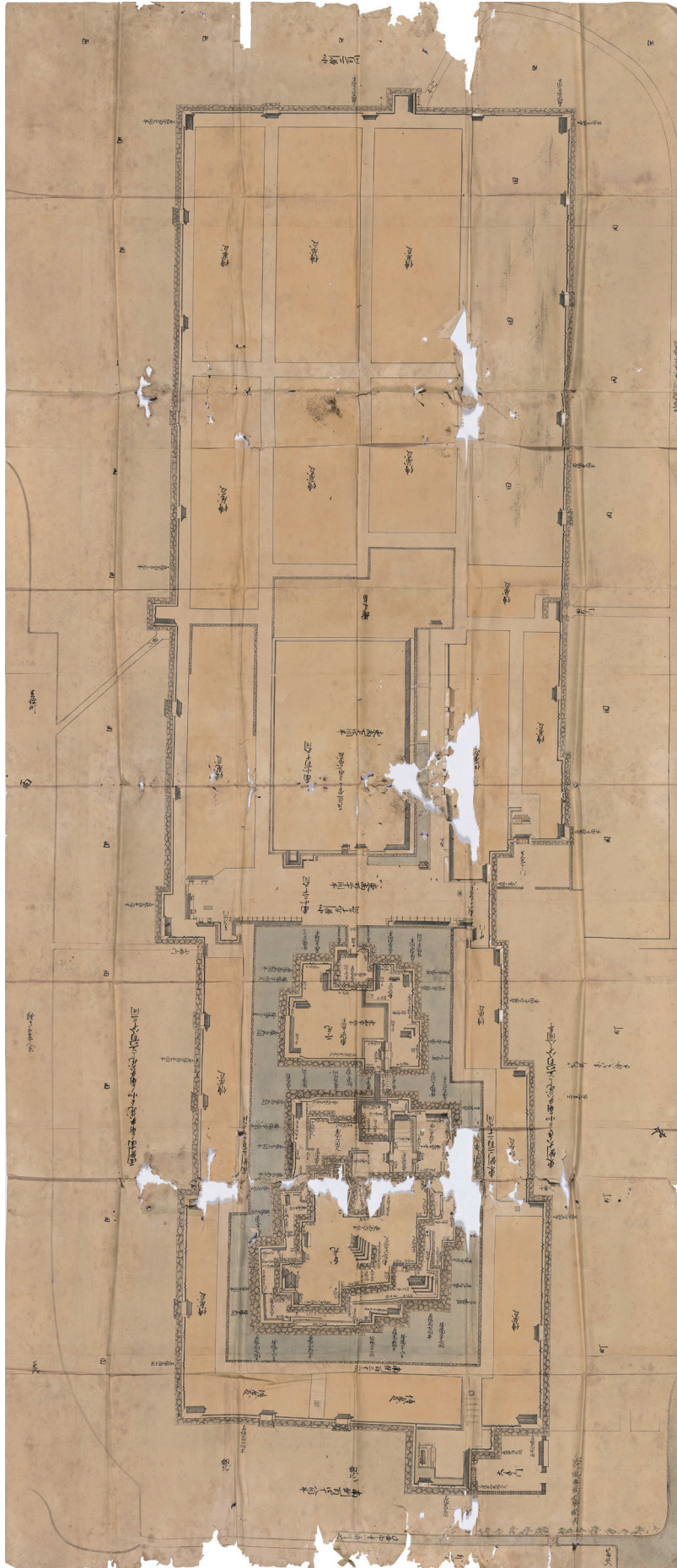




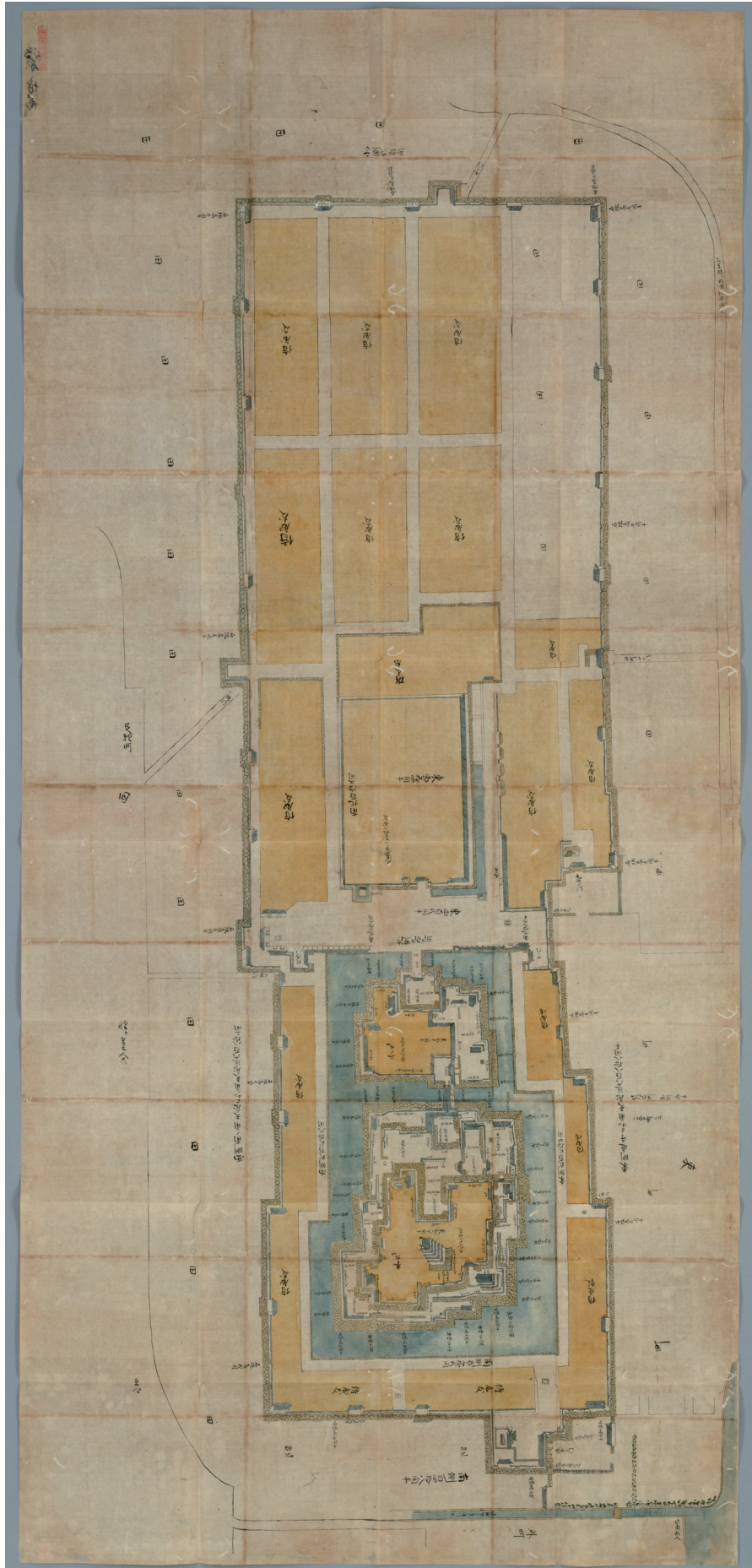




6 島原城之図 臼杵市教委 ①-86

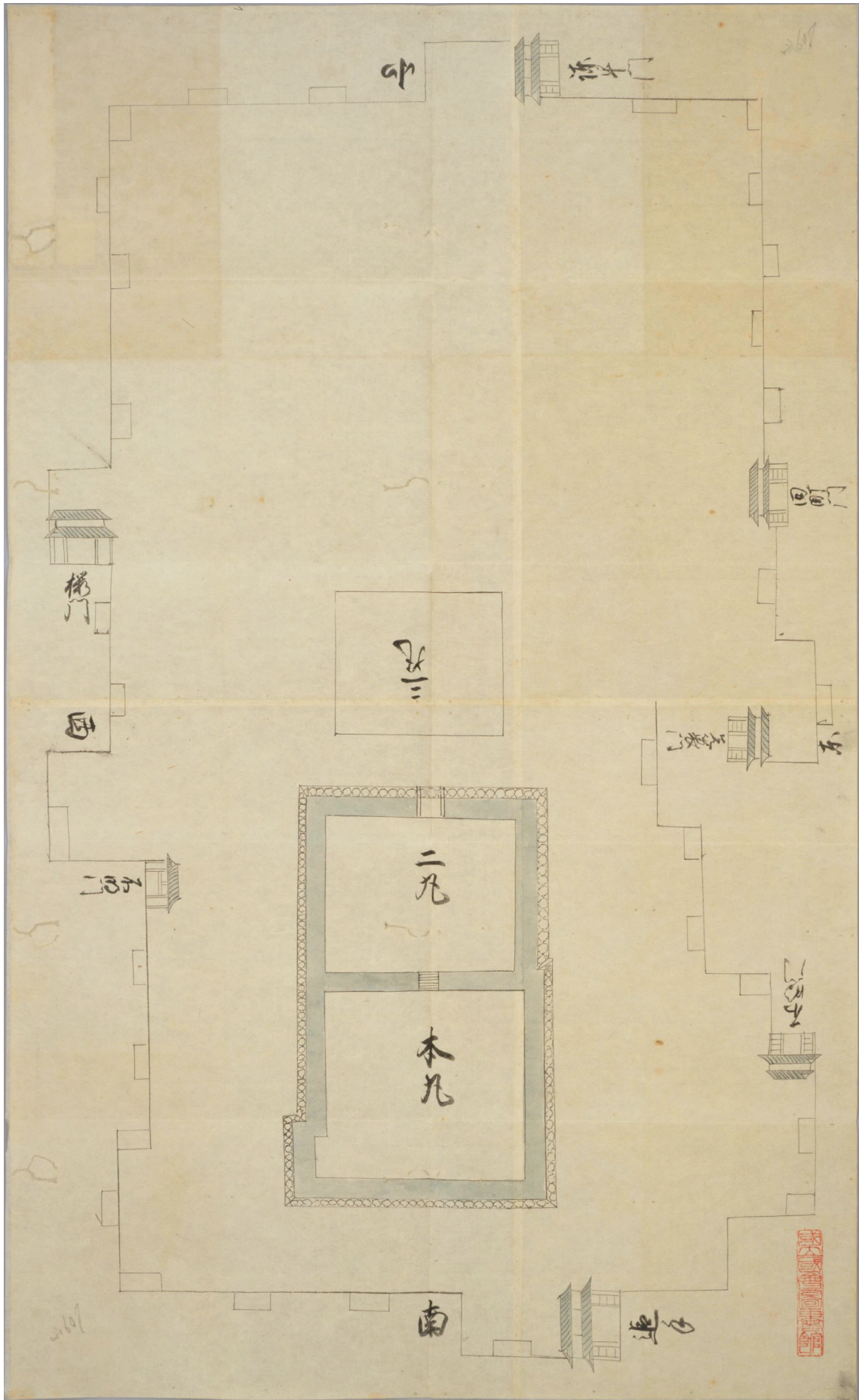






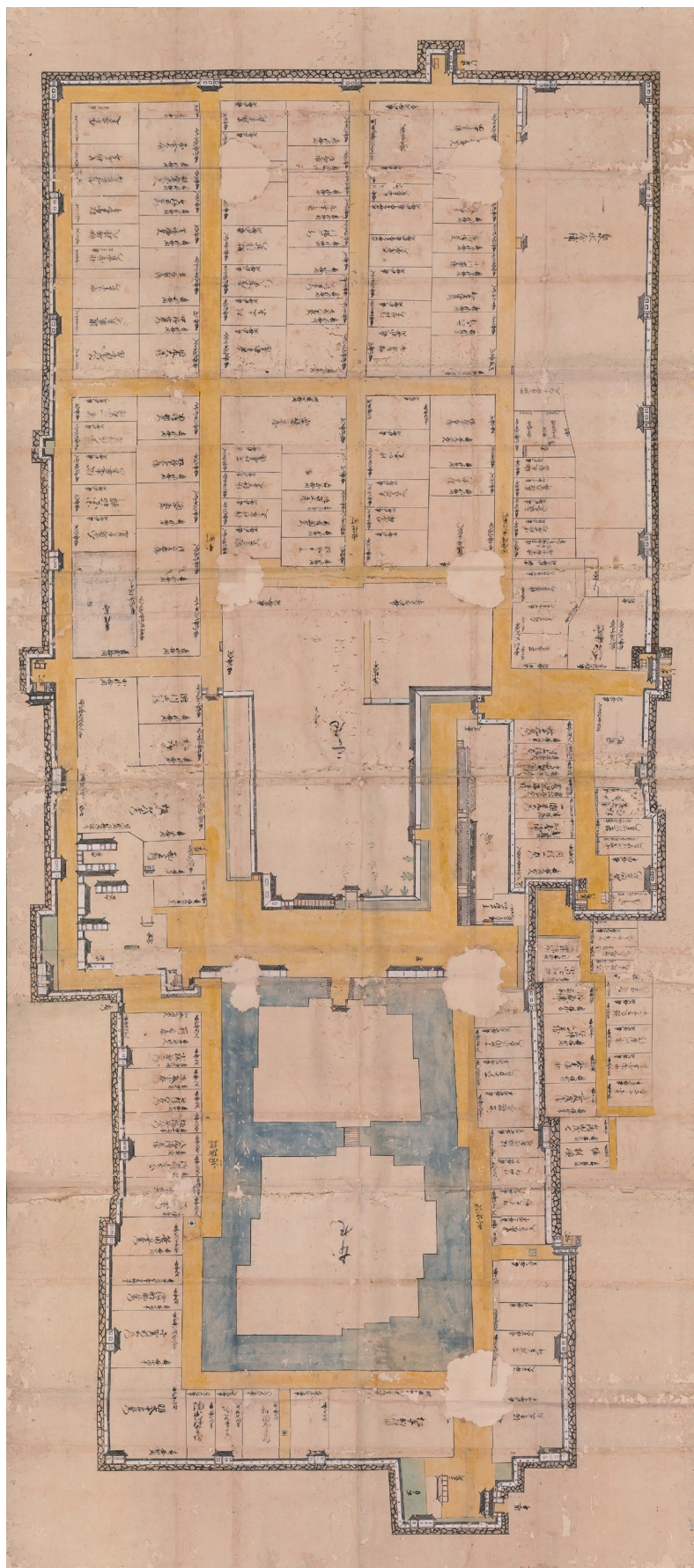


8 肥前国嶋原城絵図（〔日本古城絵図〕西海道之部（1）321） 国立国会図書館



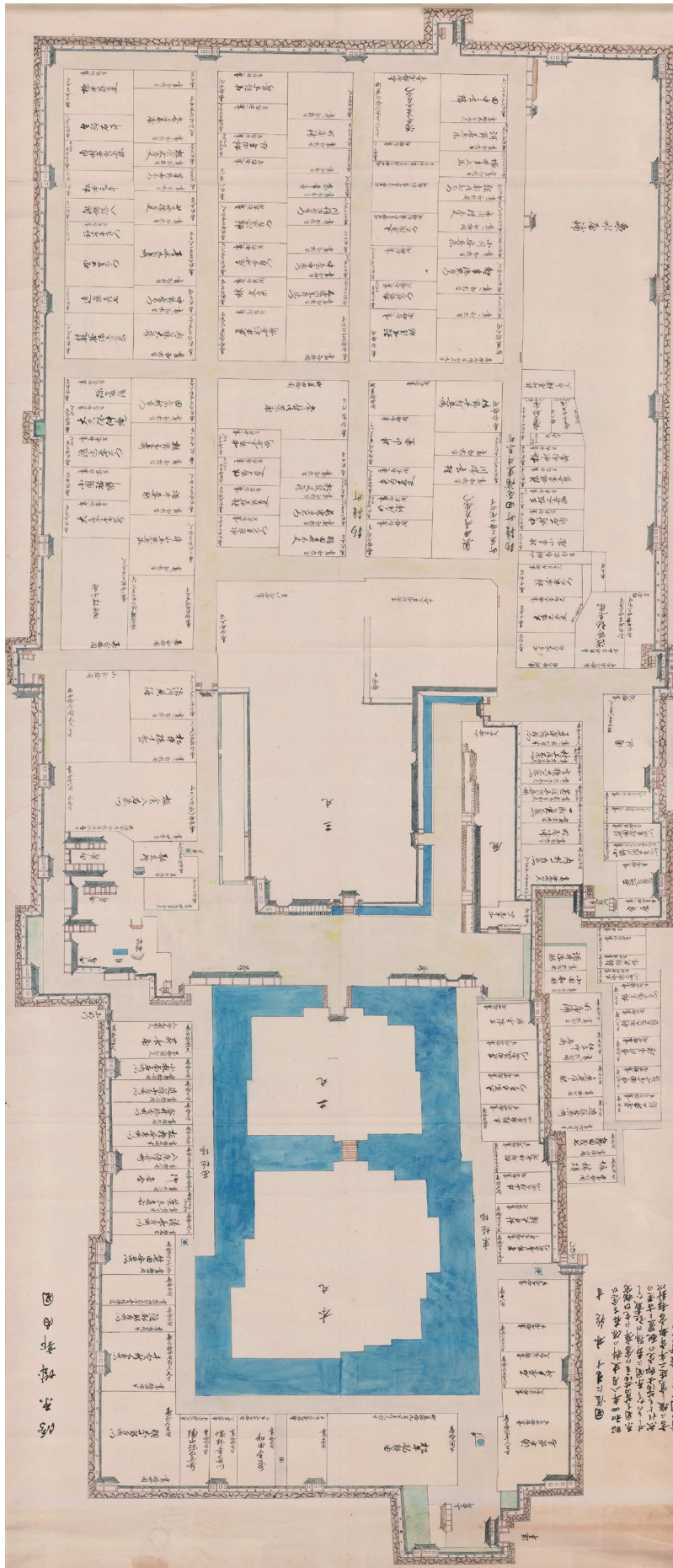


9-1 島原城城郭図 本光寺 771



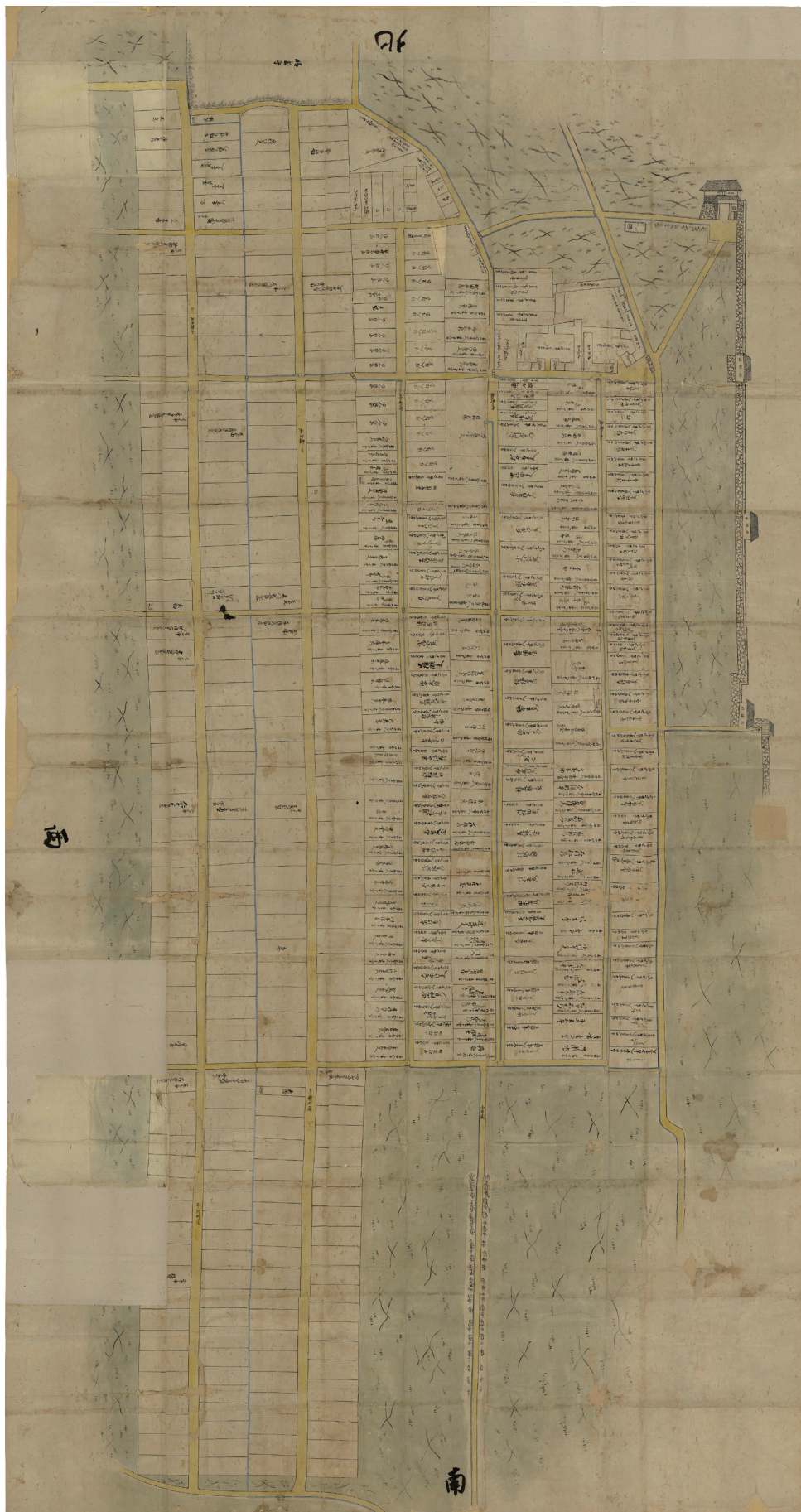


9-2 島原城郭内図 松平文庫 絵図7



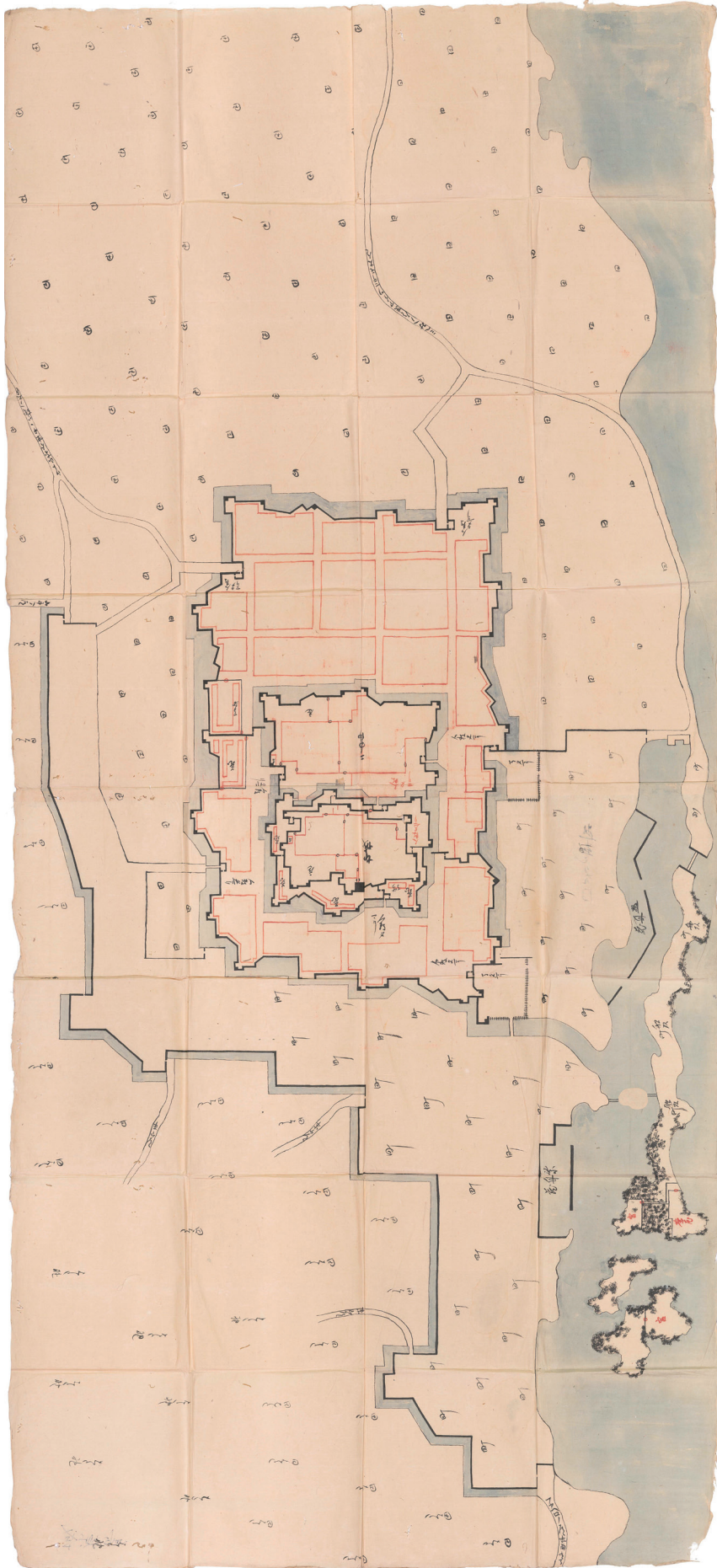


10・島原城下図(鉄炮町) 本光寺 771  
・〔城下図断簡〕 本光寺 M1897





11-1 惣直シタル図（島原城図） 臼杵市教委②-15



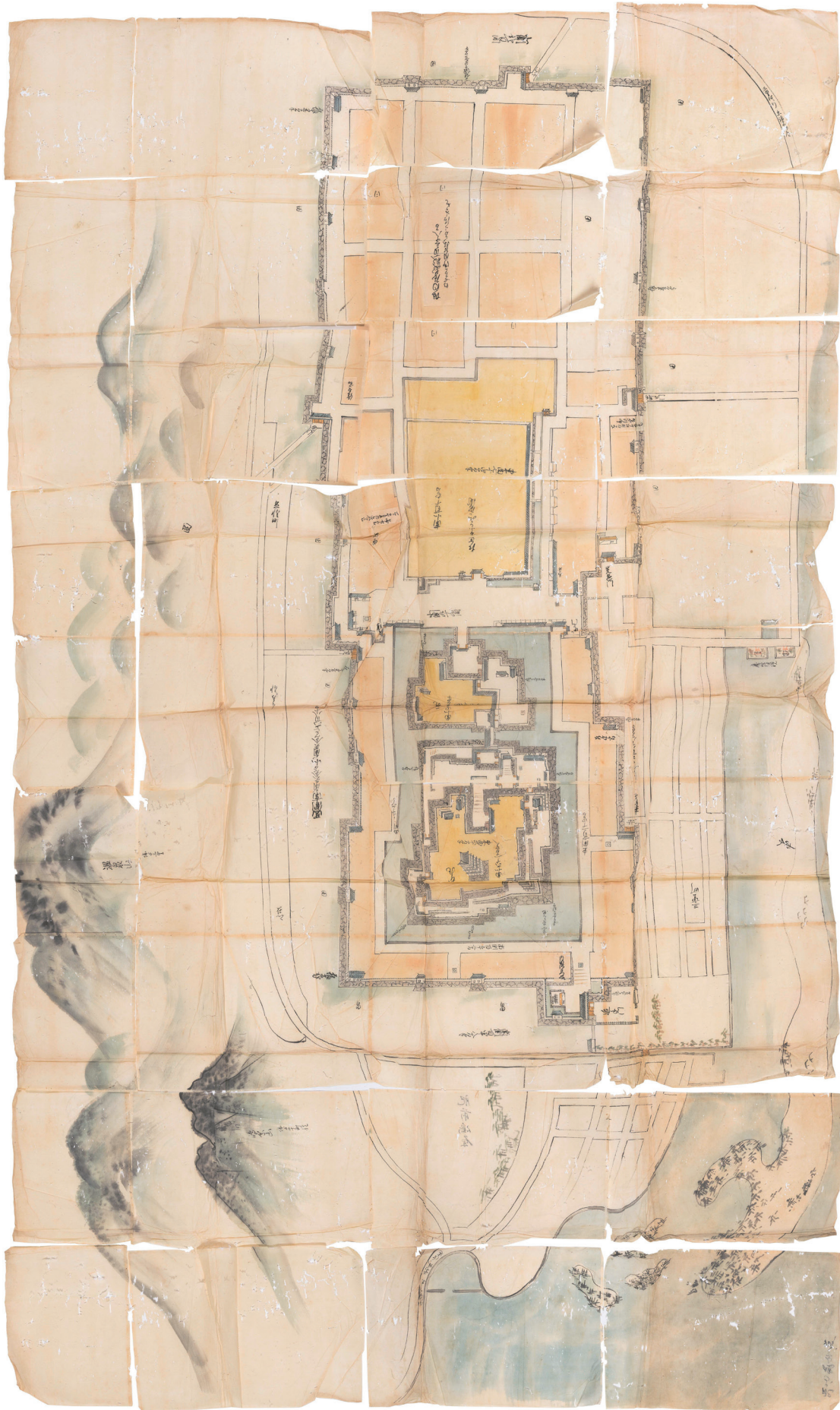


11-2 惣直シタル図(島原城図) 臼杵市教委②-151

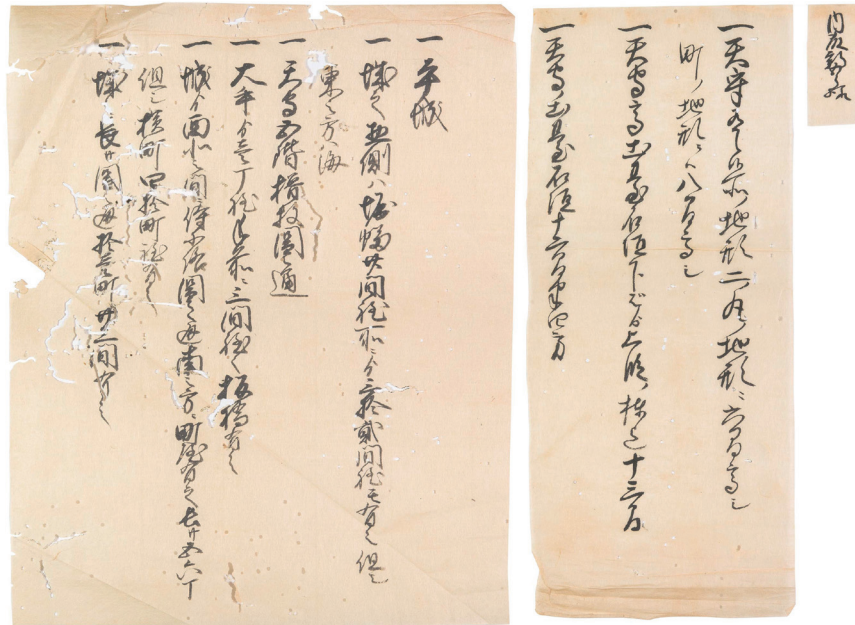




1 2 肥前嶋原之城 臼杵市教委② -116







内藤新五郎様

- 一 天守有之候所ノ地形ニノ丸ノ地形ニ六間高シ
- 町ノ地形ハ八間高シ
- 一 天守高土台石垣下バ「端」より上段ノ棟迄十三間
- 一 天守ノ土台石垣十二間半四方

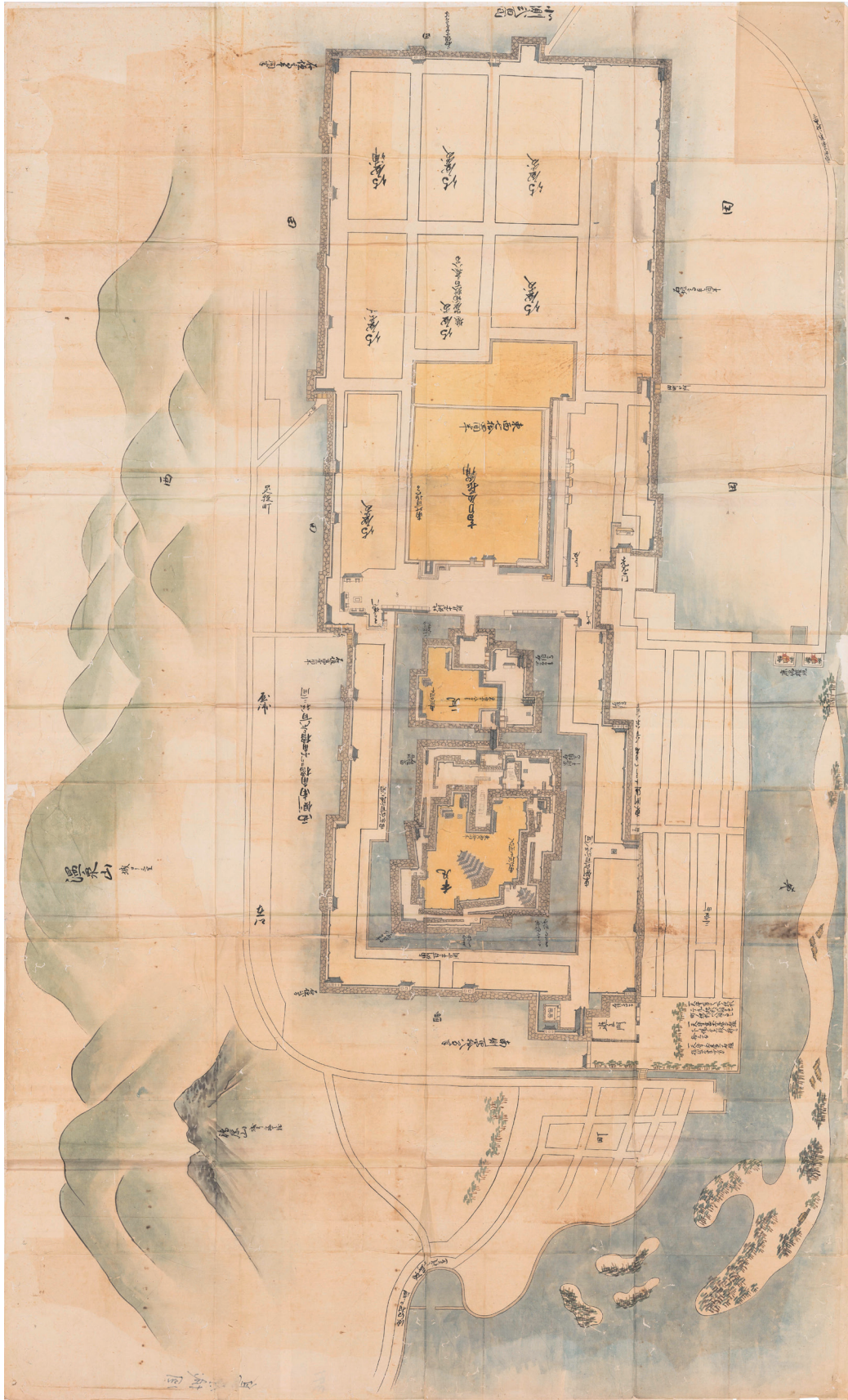
- 一 平城
- 一 城之惣側ハ堀幅廿四間程、所ニより三拾式間程モ有之、但シ東之方ハ海
- 一 天守五階櫓数図之通
- 一 大手より壺丁程手前三三間程之板橋有之
- 一 城より西北之間ニ侍小格図之通南之方ニ町屋有之長サ五六丁但シ横町四拾町程有之
- 一 城之長サ図之通拾壺町廿三間有之

(付箋1)  
内藤新五郎様

- (付箋2)
- 一 天守有之候所ノ地形ニノ丸ノ地形ニ六間高シ
- 町ノ地形ニハ八間高シ
- 一 天守高土台石垣下バ「端」より上段ノ棟迄十三間
- 一 天守ノ土台石垣十二間半四方

- (付箋3)
- 一 平城
- 一 城之惣側ハ堀幅廿四間程、所ニより三拾式間程モ有之、但シ東之方ハ海
- 一 天守五階櫓数図之通
- 一 大手より壺丁程手前三三間程之板橋有之
- 一 城より西北之間ニ侍小格図之通南之方ニ町屋有之長サ五六丁但シ横町四拾町程有之
- 一 城之長サ図之通拾壺町廿三間有之

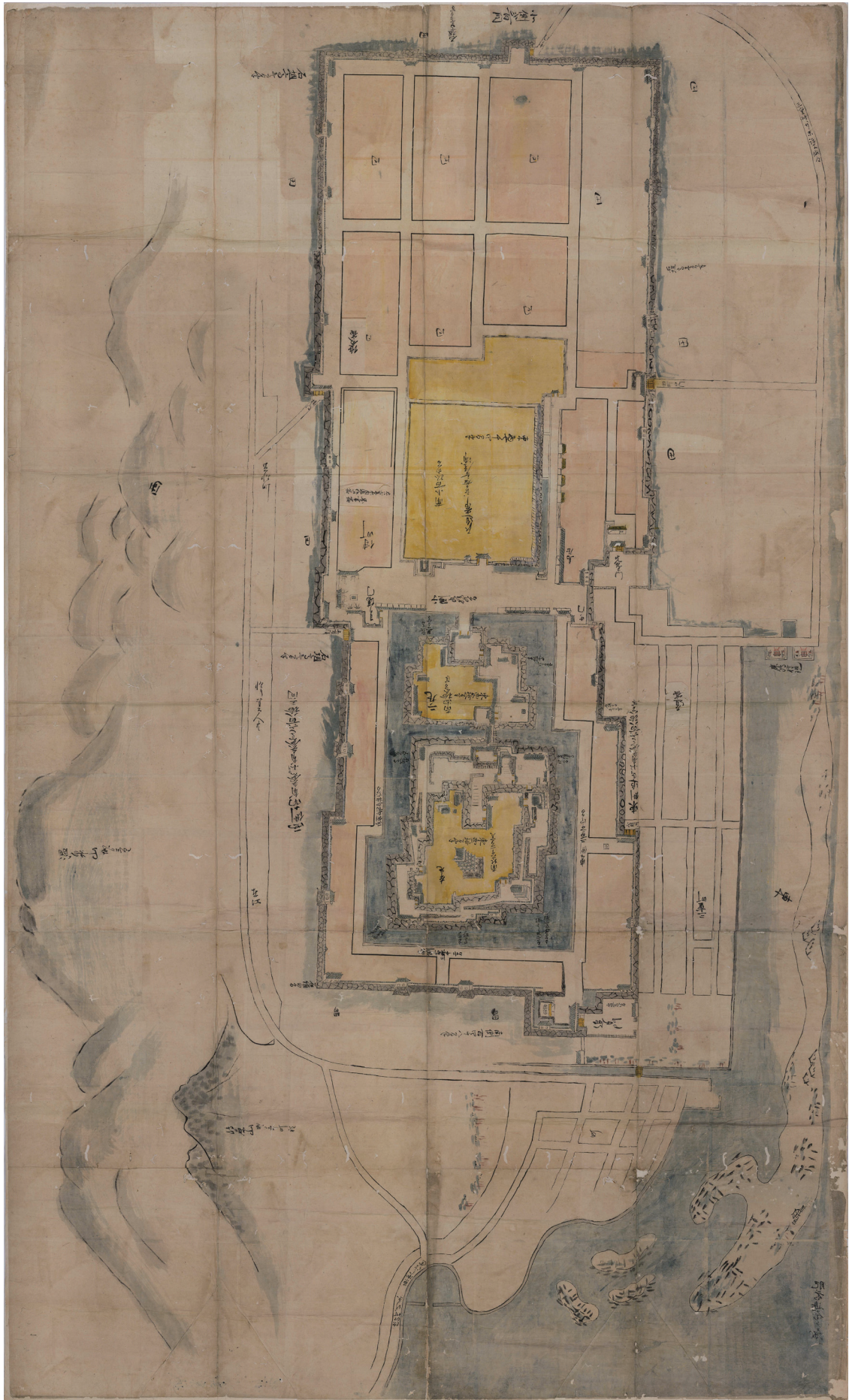
13 〔島原城図〕 臼杵市教委 371



島原城図  
臼杵市教委蔵

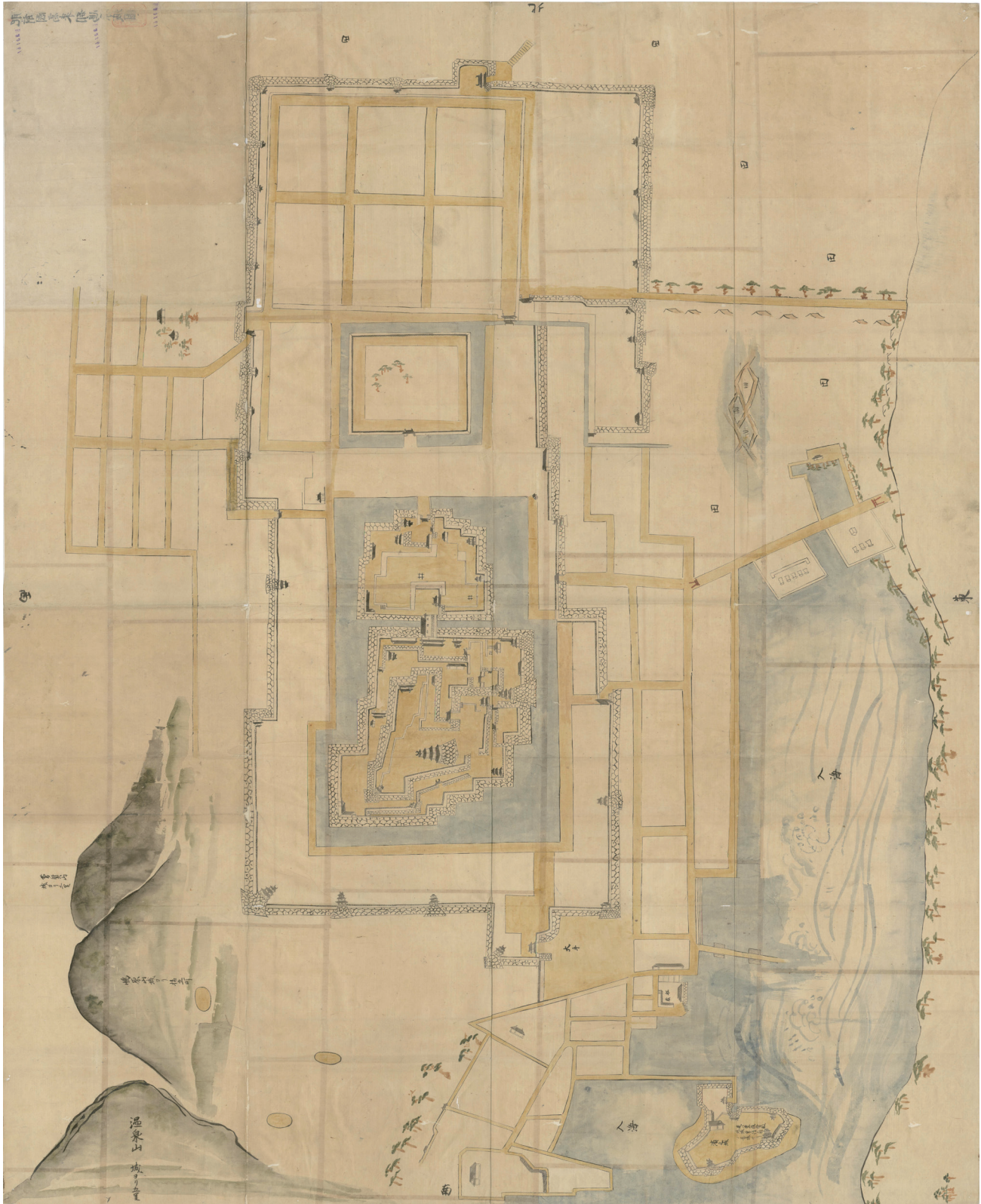


1.4 [肥前嶋原之城図] 臼杵市教委 99





15 肥前国高来郡嶋原城図 佐賀県立図書館 郷0921



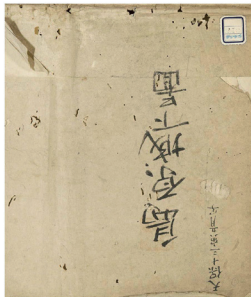




裏書きに「嶋原城廻之絵図」とあり



17 島原城下図 九大文化史 松木 354



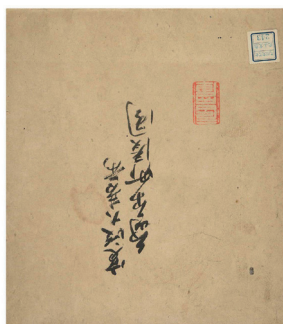


18 島原惣町大變前図 九大文化史 長沼 1776





19 島原惣町之図 九大文化史 元山 243







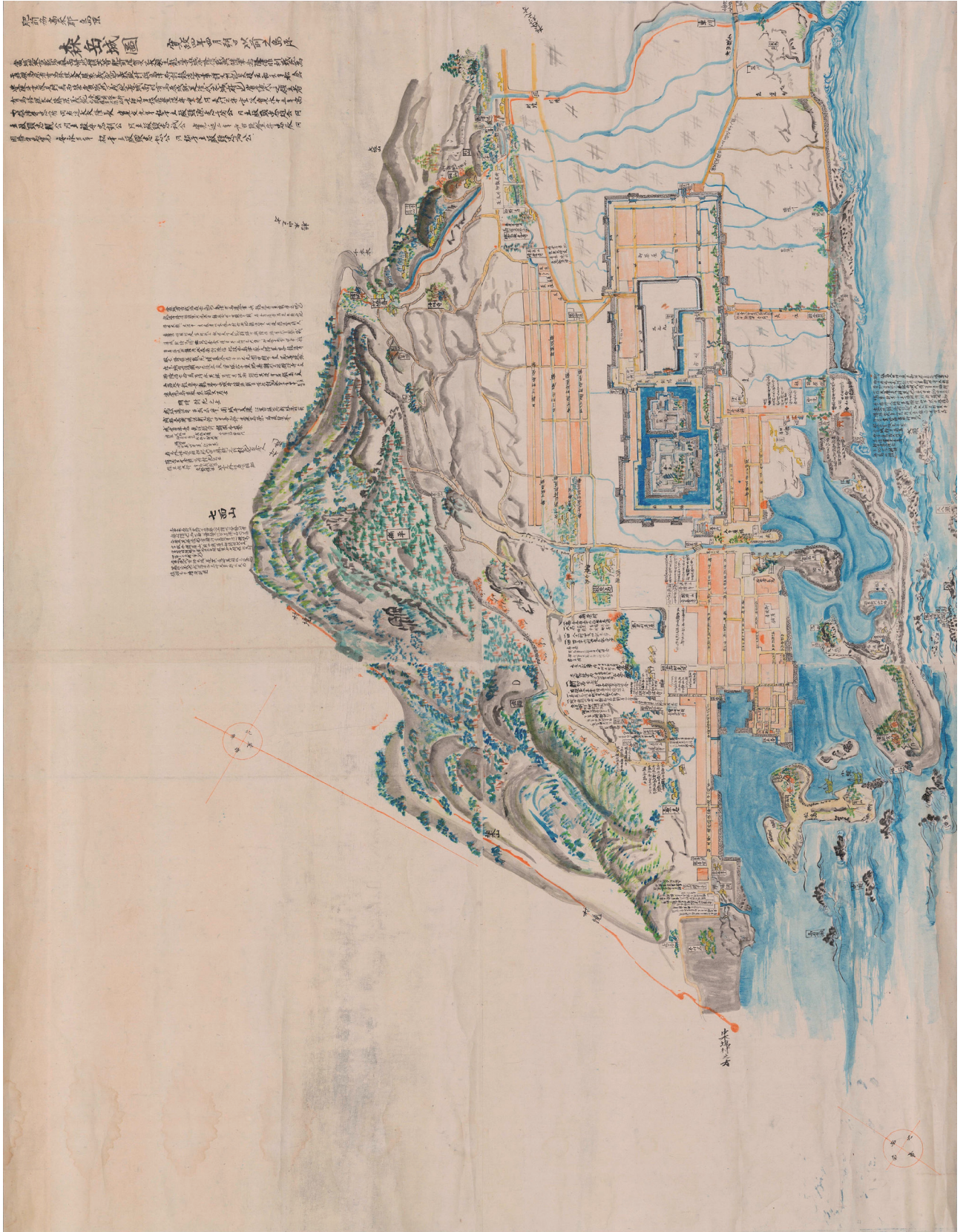


21-1 森岳城図 八幡神社（島原）



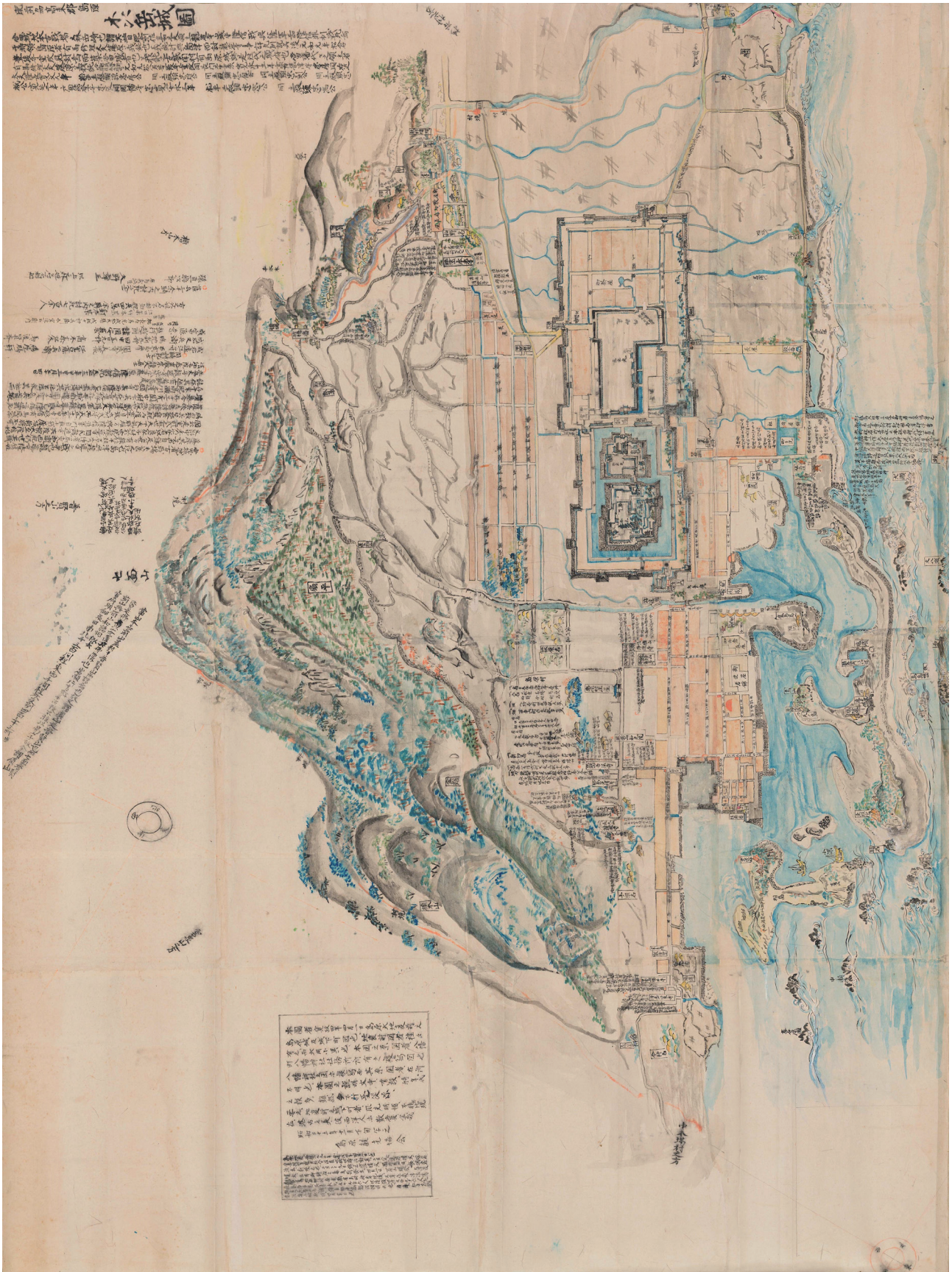


21-2 森岳城図 松平文庫 絵図8





21-3 森岳城図 松平文庫 絵図9







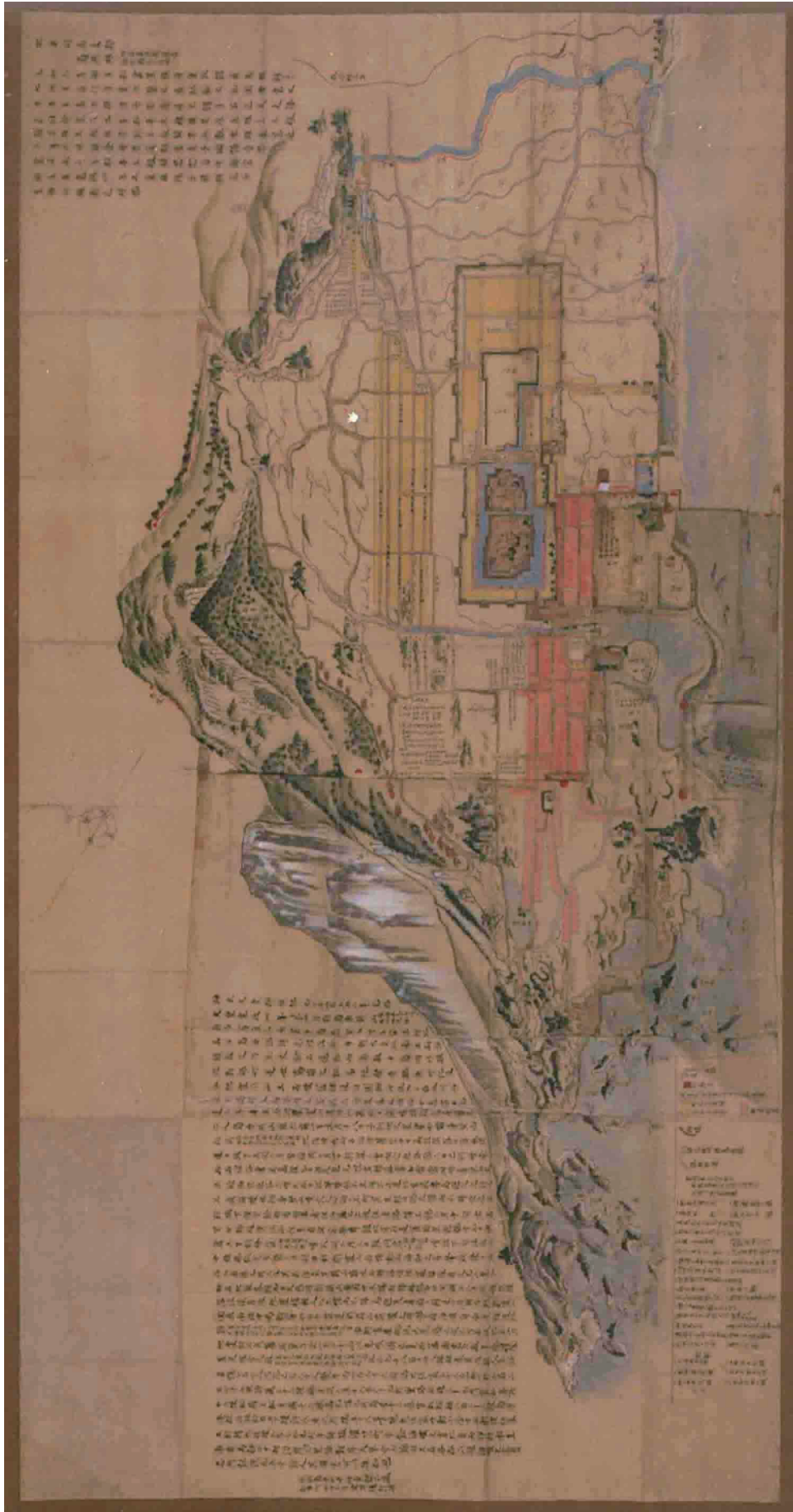


21-5 嶋原大変前後図・前図 松平文庫 絵図1





・後図

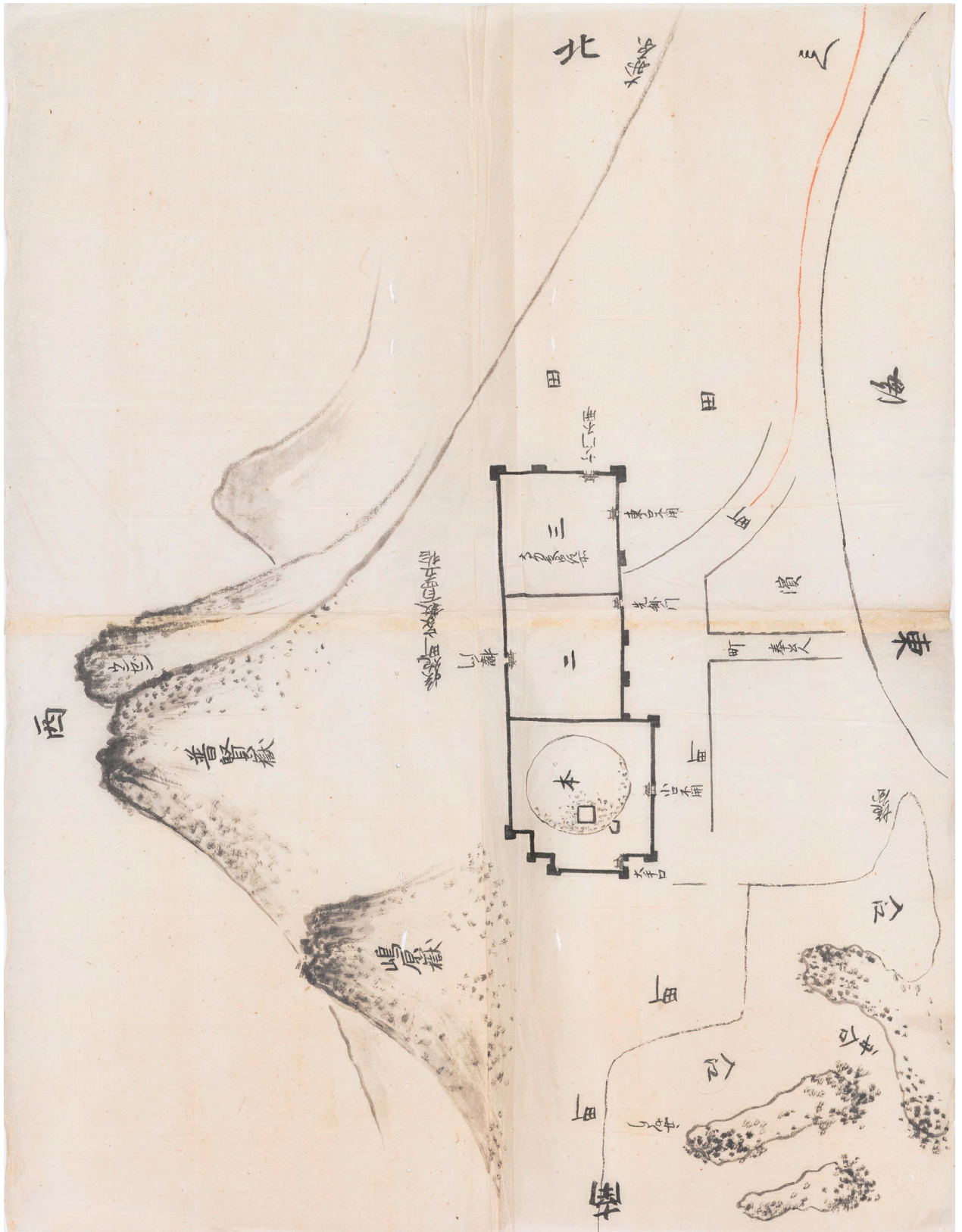


2.2 [島原城周辺図] 臼杵市教委 ①-32





23 [鳴原城・普賢岳周辺図] 臼杵市教委 ②-96





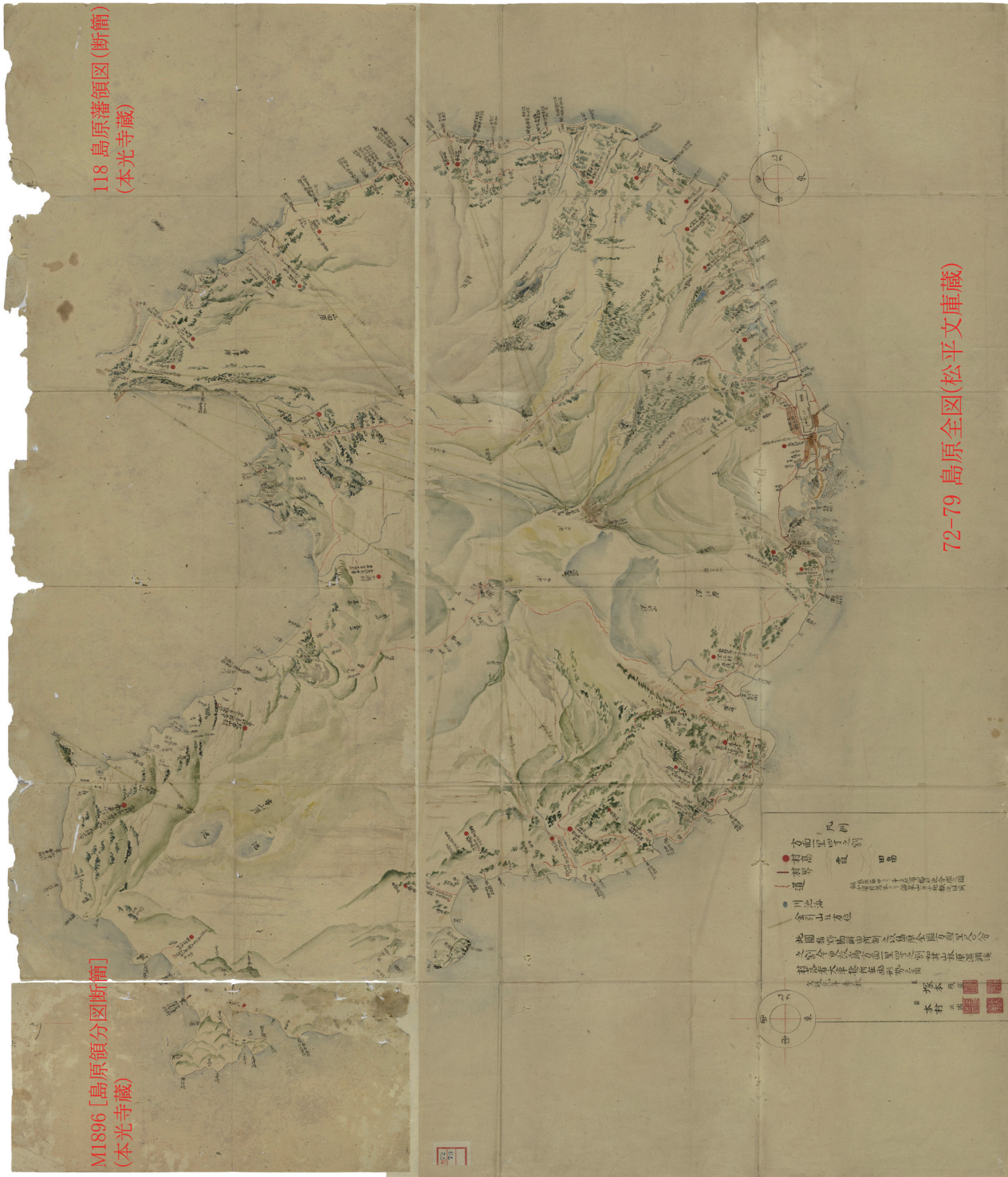








- 26・島原藩領図(断簡) 本光寺 118
- ・〔島原領分図断簡〕 本光寺 M1896
- ・島原全図 松平文庫 72 - 79





27〔島原領要害略図〕 臼杵市教委 97





28〔島原半島周辺図〕 臼杵市教委 ②-27





29 [島原半島図] 臼杵市教委 105



30 島原半島図 臼杵市教委 ②-91





